

当授業をお受けの皆さま、お疲れ様です。ご承知の通り、この授業は、ノートを取りづらい上に、扱っていることが抽象的でいまいち理解しがたいことであろうことと思います。残念ながら、私の力では、誰でも分かるマトモなシケプリが提供できるとは、全く思っておりません。私も頑張って他のクラスのシケプリに当たって、内容が使えるのならば補遺として提供致しますが、アナタ自身でも自力で他のクラスのシケプリも収集し、いくつか比較しながら、試験に臨むのが賢明であると思われます。大学受験の時もそうしましたよね？ S 台や K 塾、はたまた乙会の参考書を見比べつつ、自分なりの解答を作っていたあの頃のように、せっせと情報収集に励んでくださいませ。なお、私のシケプリの情報不足、並びに私の力量不足あるいはアナタの情報収集能力の欠如に起因するシケプリ使用者の成績不振には、一切責任を持ちません (or 持てません) のでご了承ください。

まずは授業内容をなんとかノートに起こしたものを載せます。表記は一般的なものに準拠します。丸文字ゴシックなのは気に留めないでください、わかりやすく書こうと思ったら、何故かおのずから字体まで柔和になっただけです。高橋先生のテストは丸文字ゴシックなので、慣れておいていただけたら、と思います。またノートを貸してくれた方々、ここにて改めて感謝。ホントさんきゅ なお、高橋先生の傾向をさらに把握するために、  
昨年のシケプリなども参考に使用しておりますので、内容的には授業よりも大幅に飛躍して  
おります。(注：もちろん論理的には飛躍しているわけではない、はず。) 高橋先生は昨年のノートと内容は異なると言っておりましたが、実は内容自体はずいぶん重複しております。なんだかんだ言いながら、彼のやっている内容は毎年それほど変わりません。昨年のシケプリ見ていると、授業内容が一字一句違わない箇所もあり、笑えます。昨年はゲーム理論をやっていないことぐらいが違いですね。しかし、よくよく考えたら、高橋先生はノートを昨年からほとんどいじっていないわけで、そのノートに書いてあることは、実際には伝えていないにも拘らず、我々に全て伝えたと思っているのだとすれば、試験にその盲点をつかれたらジーコも真っ青です。あの人の授業を見るに、そのような可能性を捨て切ってしまうのはちょっとコワイ。ということで、多少密度が濃くなりますが (必然的に負担も増えますが) 以下のまとめをやっておいて損はないと思いますよ。普通のシケプリしかいない人は、他のクラスや友達等を当たってください。また、今後、シケプリの補遺などとともに、過去問の提供、説明 (試験範囲のみの説明でいいですよね?) および略解でもつくることに致します (余裕があれば)

さァ、では本論に入りましょう。はじまりはじまり～

## 000：イントロダクション

内容は現代政治学である。いわゆる政治的意見・着想は評価されないので注意！

授業内容はTVとも新聞とも全く異なる：天下国家を論じることはしない

× 政治的な考え方

政治学的な考え方

政治理論 political theory

理論 theory には規範的理論 normative theory と経験的理論 empirical theory がある。

政治には政治の特色がある。

目標：現代政治学のテクニカルターム・基本用語を知る 政治学的思考法の習得。

現代政治学の基本的な概念を知る 政治学への理解が深まる。現実生活での応用。

## 001：政治学的思考法

(1) 経済学的思考法... 根本的には benefit と cost の関係で考える。

しかしながら国際化した新たな経済を説明できておらず、

30 年ほど前に隆盛していた頃の権威はもはや無い。

(2) 社会学的思考法... 統一された対象も無く、方法も無い。個人 - 集団 - 社会の関係を  
思考軸に置く(群衆、集合意識など)。

(3) 政治学的思考法...

. (独裁者の)権力 power... 命令を行使できる

最後の切り札 (or 究極の理性) ultima ratio 説明無しでの強権力

the final word of king 「殺してしまえ」 etc.

cf. leadership 複数の人々と協調(共調)する見方、公共性を保有。

協働的。集団的な利益を重視し、集団の自発性を導く。

leadership と power の違い...

leadership は対象を納得させた上で力・命令を行使、

power は強権的な発動によって力・命令を行使。

- . 共存...人と人との関わり合い。意見の合わない人とでもうまくやっていく。皆の意見を重視。民主主義的 democratic な考え方。

すなわち、政治とは意見の違う人がいたときに無視や排除するのではなく、共存するための技術である。(異なった見解の承認 妥協、少数意見の尊重)  
「頭を割るのではなく頭を数える」とよく形容される。

現代政治学を、経済学・社会学の観点からも整理すること、および図式として把握することが望まれる。

### 010：政治科学 political science とは何か

(実際のところ、先生は説明らしい説明をしていません、多分。もし何かあれば補遺で伝えます。内容自体は次の011で触れられています。)

### 011：歴史的3類型

1. (政治)哲学...古代ギリシア Ancient Greece で創始され、ソクラテス、プラトン、アリストテレスのような者が先駆者。古代ギリシアでは政治学と哲学が融合していた。知識人たちは、社会(ポリス polis)はどうあるべきかを語っていた。特徴としては、規範的 normative—規範を基礎として社会的事実の変革を目指すことがある。ただし、現実にある事実を無視しているわけではない。事実は規範を無意味にはしないが、事実と規範を混同すべきではない(e.g. 政治家が賄賂をもらっていることが「政治家は賄賂をもらってはならない」という規範を打倒することは無いが、そうした規範があるからといって政治家が賄賂をもらっていないと混同してはならない)。
2. (政治)イデオロギー(原理)...中世末期に発達。ジョン=ロック John Locke、ルソー Jean Jacques Rousseau らが展開。特徴としては、実際の practical 現実を強く意識し、現実を批判・擁護する。《規範命題》だから《実際的手続》をした方がいい、といった感じの主張がたびたび見られ、規範の上に立ってどうすればいいかを求める学問であるとも言える。

3. 政治科学 political science = 現代政治学...特徴としては、経験的 empirical 現実  
対象をしっかりと観察したのちに、説明、  
解釈、(出来れば)法則性を求める。

註1 . 上記の過程を進歩的歴史観によって捉えるのは御法度。通過過程と見られがちな哲学、イデオロギーも現在並存しながら政治学において通用している。

註2 . 上記の 3 つの過程の類型は理念系 idealtypus 現実には存在しない類型 に  
すぎない。各類型に 100% 純粋なものが存在するわけではない。政治科学の本にも、作者の哲学・イデオロギーが自ずと垣間見えるものである。

## 012 : 現代政治学 Political Science (=PS)

### 1. 特徴... 事実と規範の分離

科学の「基本」的姿勢であって、規範を求めるために事実の探求は必要である。

価値自由性と価値中立性 価値・規範は別々と考えて取り扱う。政治学にもともと存在する哲学の部分なるべく切り離す。

.経験論

帰納的定義 具体的な経験・データを多数集めて、そこから、帰納的に一般論的結論を導く。

.学際性 interdisciplinary 政治学は古くからあったため哲学と密接に結びついており、社会科学になるのが遅れた。そのため「科学」化した他の社会系学問を採用し、政治学を「科学」化することに躍起になった。こうした過程もあって、政治学の対象は複合的である。

### 2. 現代政治学の歴史

.行動論革命 behavioral revolution

1950 ~ 1960 年代のアメリカにおける政治学の新しい流れである。従来、政治学は哲学的であり、対象が制度の問題に偏っていた (制度論 institutionalism)。これに限界を覚えた当時のアメリカの政治学者が人間の行動を観察した上で、帰納法により結論を導こうという考えが生まれた。この考えは 1970 年ごろにはアメリカ政治学の主流となった。この考えの根底には、

人間は独立し、自主的な判断に基づき行動するという前提がある。しかしながら、政治と無関係なことから政治行動を分析できると言う概念が、「政治学」としての限界露出として急進的左翼 radical left による批判 を受けたりもした。曰く、それは「政治的異議の無い政治学」apolitical political science でしかない...政治とは価値・規範と結びついたものではないのか？世の中を変革する力は持たないのか？ 政治はよりよい生活をもたらすための介助となるべきではないのか？ &c.

.ポスト行動主義（脱行動論主義）post-behavioralism

行動主義離脱派

a . 保守派 「個人 自由な選択（意思）によって行動する」といった前提を疑う。彼ら保守派が言うには、「自主的に行動できる近代市民間にそぐう人間は実際には多くなく、慣習・規則・取り決め等の制度 institution の中で行動し、自己の利益を最大化するのが人間である。そもそも人間が選択できるレパートリーが限られており、その上で人間は合理的選択 rational choice をするものだ」...新制度論 new institutionalism の論理

b . リベラル左派 「人間は元来自由ではなく、制度と言うよりはむしろ歴史的・社会的制約の方に束縛されている。個別的な環境より歴史的なものに問題の焦点をあてるべきだ。」...歴史的制度論 historical institutionalism の論理

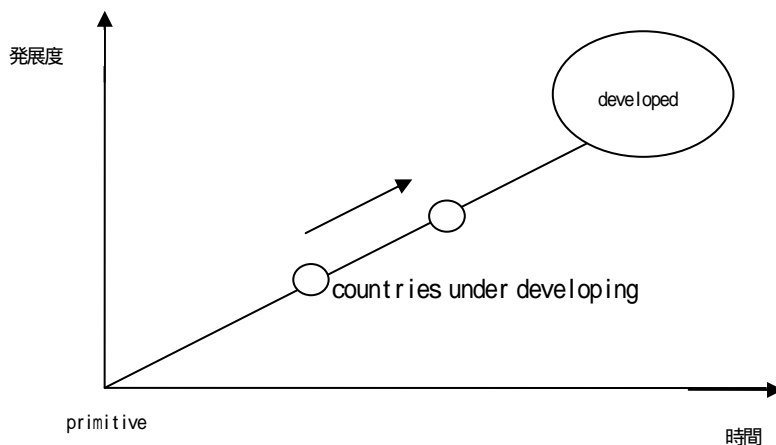
cf. (心理) 行動主義 behaviorism 心理学に基づく考え方で、心理的な影響を]与える刺激を与えることで人間の行動をコントロールできるという立場を取る。20 世紀中に発展したが、既に時代遅れとされつつある。なお、行動論主義 behavioralism とは別物である。

## ・注意すべき点

1 つの体系をもった政治学が確立されているわけではない。現代政治学とは、歴史を経て、PS の特徴を備えたものの総称であり、枝葉末節は実に多岐にわたる。

政治科学 PS は、真に科学的な客観性ないし中立性を持っているか...真理は、あるパラダイム paradigm 考え方・ものの見方の枠組みの中でしか、存立し得ない (e.g. Newton 's Paradigm と Einstein 's Paradigm はどちらも本人、およびその時代の人々にとっては「真理」であった)。研究する学者の価値観、および時代の趨勢が必然的に入り込んでしまう。例えば以下のようなことも一例である。

1960 年代の発展途上国を巡る比較経済学及び政治学では、開発発展が以下のようなモデルで語られることが多かった。即ち、発展途上国は primitive developed の途上にあり、過程は直線的であるとする議論である (unilinear theory と呼ばれるヤツですね)。しかし本当に発展の仕方は以下のモデルのごとく直線的なのだろうか？ また発展の最終結果が先進国になるというモデルは、果たして正しいのか？ 等々の疑問も今日の我々は抱いていることだろう。



これ以上の詳細については、T . S . ク ン著「科学革命の構造」(みすず書房)のパラダイム・チェンジ理論を参照されたい。

### 013：注釈

理論には以下のような概念も、あるにはある。

1. モデル model...複雑で晦渋な実物・現実を単純化して表現するもの
2. 方法論 methodology...単純化・モデル化するためのツール

### 100：意思決定の基礎理論

意思決定にあたっては、合理的人間を前提としている。（イントロダクションなので、この程度しか言っていないはずですが。「合理的」の内容は111で説明しています。さ、次行きましょう。）

### 110：利益関心 interest

（これも111での説明の導入でしかないような...次行きます。）

### 111：概念

まず、前提として行為者 actor は合理的であると仮定する。

政治学では、行為者の行為する側面は抽象化することにする。

#### (1) 基本的な考え方

利益関心を、モデルとして式で表すと、 $D=f(Ir)$  と表すことができる。ただし、

D: decision making 意思決定

Ir: interest 利益関心

の意味である。

#### (2) interest とは？

1. 具体的に「得」になること。社会的、心理的利益。
2. 「注意や関心」を引き付けるもの（要素 a, b が D に影響を与える）
3. 合理的 rational 「理性に従って行動する」

(合)理性 哲学的...衝撃・本能に左右されず、思慮や分別に基づいて行動すること、および目的を設定する上での善悪的な判断。  
定義が難しい。

科学的...目的に対してもっとも適切で短絡な手段を選ぶ

= 目的合理性。

ただし、目的の設定やその是非をめぐる思考は、目的合理性では達成できない。換言すると、科学的合理性は、その目的が正しいかどうかを問題としない。科学的合理性は限定された理性でしかなく、問題解決には、結局のところ、哲学的合理性による解釈が自然と紛れ込んでしまう。

## 1 1 2 : 歴史的源泉

### (1)人間の合理性

#### 1.中世 カトリック Catholic による人間性

神 = 絶対者 absolute ( 1 つも間違いを犯さない )

人間 = 神に導かれる存在 神様の理性に従う 「迷える子羊」

絶対者である神の理性は無謬であり、人間は神に導かれる。

(神の理性に従って生きていく。) 人間自体には理性は存在しない。

#### 2.近代 神学から離れて人間性を考える

ジョン=ロック John Locke(1632-1704)の思想

「人間というものは神より下にあるが、神に頼らず生きている。人間は誤りを犯す者かもしれないが、それを正す理性は持っている」

自己決定的人間観 ( 独立した意思で行動できる )

### (2)利益の考え方

前近代 「私利私欲に走るのは神の教えに反する」

近代 (ルネサンス期以降) 「人間は自分の利益に従い行動するのが普通 (私利私欲)」

マキアヴェリ Machiavelli(1469-1527)の思想 性悪論的人間観

「人間は何が自分の利益になるかを考えて行動する」

「人間の本质というのは野心と貪欲である。」人間は恐れている者よりも愛情を感じているものを傷つけるものだ。なぜなら、人間は元来邪悪であるから恩義でつながる絆など利害が絡むと壊れるが、恐れている者からは処刑の恐怖にさらされているため、見殺しにはできないためだ。」 『君主論』

「愛情 < 利害 < 処刑」の恐怖

ベンサム J. Bentham(1748-1832)の思想 功利主義 utilitarianism

人間にとって一番大事なものは幸福である。(幸福とは快楽があり苦しみが無いこと。例えばいい哲学書を読むことは快楽である。)そして、人間の行動原則は幸福の増大である。また、人間は社会性をもった動物 zoon politikon である。人間は幸福を増大するように行動する... $D = f(lr)$

## 120：影響力の理論 influence

人間は一人で暮らしていない限り他人の影響を受ける恐れがあり、利益関心 interest と影響力 influence の理論は現代政治学の中で重要な理論となっている。

[考え方]

Actor 1 は自分の利益関心 Interest1 にしたがって行動・意思決定する。(前提)  
あるアクターの利益関心は他のアクターの意思決定に影響を与えることがある。すなわち、Actor 2 は自己の Interest2 にしたがって Actor 1 の意思決定に働きかけ得る。  
Actor 2 が影響力を行使しても、Actor 1 がそれを受けるかどうかは別の話。

まとめると  $D = f(lr, lf)$  である。ただし、

D: decision making 意思決定

lr: interest 利益関心

lf: influence 影響力

の意である。

## 121：概念

1. 影響力を持つか否かは (公的なものであろうと私的なものであろうと) 相互の関係にかかっている。つまり影響力とは実体を持つものではなく、人々の関係の中で働くものである。(e.g. 水戸黄門の印籠)
2. 影響力は行動を変える度合であり、それは互いの関係によって決まる。影響力の及ぶ力を All or Nothing とするのは粗雑である。但し影響力を結果の変更のみで測ってしまうと結果の変更は成功しないが、気持ちに影響はあるという場合を見逃してしまうので、気持ちの変化も影響力に含まれる (次ページの定義2を参照)。

## (1)定義

### 1. 影響力には度合が存在する。

例えば行為Aをすることを 50 で表すとして、いま、自分の位置を 30 とするとき、影響力の行使者から正の方向に 30 ほど影響力を受けると、自分の位置は 60 となり行為Aをすることになるが、同じ正の方向でも影響力を 10 しか受けないとすると、自分の位置は 40 にしかならず意思決定は変わらない(行為Aをしない)。

### 2. 行動だけでなく、行動には表出しない感情・態度(理知的反応傾向 attitude)も含まれる。

## (2)補助概念

### 1. 領域 domain...影響力を及ぼすことのできる範囲のこと。人物Xがどれだけの数の人に影響を及ぼすか。影響力の領域には差が存在する。(e.g.ブッシュと小泉首相、体育会のボスの影響力とその効力範囲)

### 2. スコープ scope...影響力を及ぼすことのできる特定の分野・事柄(対象・テーマ)のこと。権威・信用がなければ影響は受け得ない。(e.g.数学者の発言は、数学の分野でしか影響力を持たない。または、芸能人に国際協調なんて聞いたりしても無意味である。他には勉強しない映画通に映画のことは聞いても、勉強の話を聞いたところで無駄であり、或いは著名な考古学者が節電を訴えたところで著名な学者という信用によって、スコープをずらしているだけで影響力は実質持たない。)

### 3. 政治資源 political resource...影響力を行使する為に使える手段。以下に例として、

#### i 資金 money...2 大政治資源の1つ。

#### ii 物理的力 power...「言うことを聞かなければおしおきだ」暴力。2 大政治資源の1つ。(cf.「では p.2 の(独裁者の)権力 power とは何処が違うの?」との問いには、先生曰く、「基本的には一緒に、成立過程と語の使用目的が異なる」)

#### iii (正しい) 哲学の力 physical...論理の力(e.g.ガンジーの非暴力不服従運動)

#### iv 愛(筆者注:これが政治資源? やれやれ。)

### 4. 確実性 reliability...影響力のはたらく程度(どのくらいの度合で影響力を持つのか)や確率。n回に1度成功するなど。(e.g.ノートを3回頼んで借りることができた:reliability = 3分の1)

### 5. 強度 strength...影響力が相手の嫌がることをどの程度やらせることができるか。影

響力がどれだけ相手を説得する根拠となるか。(e.g.強度においては「一般人<ヤクザ」)

- 6.費用 cost...影響力行使の代償となるもの。影響力を行使する際にかかるお金および体力等の犠牲・損害。実際的なコストと、潜在的なコストがある。  
(e.g.買収・裏金 = 実際的なコスト、体力浪費 = 潜在的コストなど)

## 1 2 2 : (広義には)影響力に含まれる概念

- i 潜在的影響力 potential influence ( ↔ 1 2 1 : (顕在的)影響力 )  
...敢えて現時点で行使しない影響力のこと。行使しようと思えば行使できるが行使しない影響力のこと。(e.g.印籠を出すまでの水戸黄門)
- ii 権力 power...影響力を受けたアクターactor がその力に従わない場合に大きな価値剥奪 deprivation を受ける影響力のこと。価値の内容は各人により異なるが、普遍的には1.命 ( ↔ 死刑 ) 2.自由 ( ↔ 懲役 ) 3.財産 ( ↔ 罰金 ) である。伝統的政治学 ( = 政治哲学・政治原理 ) では、権力は国家が独占するもの ( 国家権力 ) とされており、マルクス主義者はこの構造に対して批判的である。しかし、現代政治学においては、誰もが権力を持ちうる。
- iii 強制 coercion...影響力を受けたアクターactor が、その力に従っても従わなくても大きな価値剥奪 deprivation を受ける影響力のこと。  
(e.g.「金を出せ、さもないければ殺す」...金を出す = 財産の剥奪、殺される = 生命の剥奪)
- iv 権威 authority...影響力を受けたアクターactor が納得して従うような影響力のこと。権威には、相手を納得させるための論理的・心理的根拠となる正統性 legitimacy がある程度存在する。(e.g.東大生が、受験生に、「ここの塾がいいよ」と言う。うーん、偏見抜きに考えて、東大生であることは少なくとも相手を納得させるための正統性があるということなのだネ。)  
(cf.正当性 justice...それが本当に正しいということ。ちなみに、正当性 ( 正義 ) に相手が納得するとは限らない。)

### 1 2 3 : (影響力の) 歴史的源泉

影響力の概念は、現代においてこそ整理はされているものの、当初からそうであったわけではない。歴史的には、(伝統的な)権力 power (=アクターactor の行動を変えさせる力)の概念が一番早く明らかになり、その権力は、古代から事実上存在していた。

#### (1) 支配 - 服従の事実

- ◆ 有史時代において、古代文明でさえも支配するものと支配者に服従するものが存在した(例: メソポタミア、エジプト、インド、...)。  
そこでは「貴族 or 神官」 - 「一般農民」という階層 hierarchy が存在した。
- ◆ ただし、人間社会にはじめから支配 - 服従が存在したかどうかは不明である(先史時代で史実資料が未だに無いため)。
- ◆ 支配 - 服従の事実は後に概念化されていく。

#### (2) 実体的権力観

17 世紀の力学の発達を背景に、政治関係の言葉にも概念が与えられる。

力学発達以前: ものを投げると飛ぶのは者自体にこめられている力による。

政治学への転化: 飛ぶもの (= 支配者) には元来、力が備わっている。

力学発達以後: ものを投げると飛ぶのは投げる人間の持っている力による。

政治学への転化: 飛ぶもの (= 支配者) には力は備わっておらず、それに力を与えている外的手段がある。

権力が力学で考えられるような power ならば力の発生には源・基礎が必要であるが、その源・基礎はいったい何なのか? それを求めようとしたのが以下の人々。

- 1 . マキアヴェリ Machiavelli... 君主の「実力」 (= 軍事力) (15 世紀、力学発達以前)
- 2 . マックス・ウェーバー Max Weber... **権威(支配)の3類型 patterns of authority**  
を示す (19 世紀)
  - i 「血統」... 伝統的支配 (e.g. 日本の天皇)
  - ii 「法律」... 合法的支配 (e.g. 現代の先進国)
  - iii 「カリスマ charisma」... 素質的・宗教的・超人的能力を持つ人が支配、特殊なケース。長続きはしない。(e.g. ジャンヌ・ダルク Janne Da Arc、ナポレオン Napoleon、中東的な宗教指導者)
- 3 . カール・マルクス Karl Marx... 「富 (生産手段)」... むき出しの力による支配  
(19 世紀末)

(3)機能的権力観（関係論的権力観）（1960年代～）

権力は実体的なものではなく、アクター同士の間に働く（機能する）「関係」「機能」である。

- ◆ 大衆主義 populism...一部の権力者のみを見る形を否定し、全体を見ることを考える。
- ◆ 機能的権力観...「力はすべての人が持っていて、それぞれ相互に働くものである」  
「全ての人に政治参加の権利がある」

1960年代、政治学に新しい流れが発生する。

「大衆主義」＋「機能的権力観」 影響力 Influence の概念誕生

機能的権力間は体系的であるあまり、実体的な力を軽視するどころか実体的な力を認めてしまい、その結果、権力者が自己の目的の為に使用する例も出てくる。

(e.g.プッシュは最大の影響力を持っているが、実はその影響力は軍事力に裏付けられたものであり、さらにそれは実際に使用できるものである。)

## 124：批判

### (1)構造的権力観

影響力は非常に洗練された表現であるが、その実体は何か？

本当にすべての人が影響力を持っているのか？

(バイトの兄ちゃんと首相を同列に論じてもいいのか？)

国民のほとんどは影響力なんて持っていない！

均衡理論 Balancing Theory...世の中はバランスが取れており、誰もがそれなりに影響力を持っているという仮定のもとで成り立つ影響力の理論でも実際の世界はそんなに理想的な状態ではない。

結局、ごく一部の人間しか権力を持っていない。

C.W.ミルズ C.W.Mills(1950 米...朝鮮戦争期、ベトナム戦争前)

著書：パワーエリート Power Elite

現実のアメリカ社会を支配しているのは、ごく少数のエリート（軍、産、官）  
＝（軍隊、軍需産業、ホワイトハウス）に過ぎない。社会構造の中に、一部の権力を持つ支配者としてのエリートと、多数のまったく権力を持たない被支配者としての大衆に分化されている。影響力や機能的視点における均衡理論を否定。影響力なんてないのだとする展開。

エリート elite は元来フランス語、選ぶという動詞から発生。「選ばれたもの」「選良」  
(2)相互作用論 interactionism からの批判

影響力の理論は本当に機能主義であるのか？

影響力の理論では、影響力が関係の上で動くが、一方向的なものだと考えている。影響力はあるアクターから別のアクターに一方的に働くとなっているが、社会の中でそれほど一方的な関係は存在しない。つまるところ、この一方向性は昔からの権力概念とさほど変わらない。

X            If            A  
                一方通行！

相互作用論者は人間同士の関係には必ず Action と Reaction が存在する、と主張した。実際は全ての作用 action は相互的であるから影響力の理論は反作用 reaction も考えなければならないはずである。

                action  
X                            A  
                -reaction- -

(e.g.アメリカの大統領はもっとも大きな影響力・作用 action を持つが、その大統領でさえも国民ならびに広く社会の反応・反作用 reaction を気にせざるを得ない。 一方的な関係を想定する政治学の影響力 influence の理論は十分機能的ではない。)

政治学において Power、Influence は Leadership に含まれており、上記の例は必ずしも適切ではない。(power leadership)

### 1 3 0 : ゲーム理論 Game Theory ( Theory of Games )

#### ゲーム理論...現在の代表的な意思決定の理論

#### 1 3 1 : 起源

##### (1)直接的起源

...室内ゲーム ( ポーカー、チェスなど ) から発生 = 限られた前提の中で行われる ( チェスのコマの種類は一定 )

(2)思想的起源...マキアヴェリ Machiavelli との共通点がある(註 : Machiavelli の理論が思想的起源というわけではない)

##### 1 . マキアヴェリ Machiavelli の政治理論

- ・状況が与えられている、与えられた ( 所与の ) 状況からの出発
- ・与えられた ( 所与の ) 状況の中での利益の最大化を目指す
- ・利益を最大化するにはどうするのか 状況の ( 部分的 ) 操作を行う ( 状況に操作を加えるところが技術論的である ) マキアヴェリはこの分野に重点を置いた。

2 . 合理的人間観...人間はつねに勝つことを目指す。アクターactor はみな合理的である。

#### 1 3 2 : 考え方

1 . 合理的人間観 利益の最大化を目指す。

2 . 利益は無限に大きくなるものではない、周りの「状況」によって制約されている。

周りの「状況」...他のプレイヤー(アクター)、条件、ゲームの解き方

ゲーム理論の図式 :  $D = f(Ir, St)$  ただし、

St = Situation

の意である。

#### 1 3 3 : 2人一定和ゲーム

##### (1)ゲーム例 1 :

プレイヤーplayer : A ・ B 一人ずつ。

戦略 ( ストラテジー ) strategy : A が 100 円玉を片方の手に握り、B がどちらの手に握ったのかを当てる。

B が当てた場合、B が 100 円を得て、A は 100 円を失う。

Bがはずした場合、Aが100円を得て、Bは100円を失う

この100円のことを今までは利益関心と言ったがゲーム理論では「利得」という。

利得行列を次ページに表す。高橋先生の授業では、右上から左上への斜線でセルを区切る。そうしてできた新たな小さい区分の、左上が行を支配する側、右下が列を支配する側である。

利得行列 Payoff Matrix 1

A \ B	B	
	右	左
右	- 100 / + 100	+ 100 / - 100
左	+ 100 / - 100	- 100 / + 100

以上の利得行列はどこの区分を足しても一定和（ここでは0）ですね？これをゼロ和ゲームといいます。

一定和ゲームの集合の中に和が0になる場合がある 0サムゲーム

- 和が正のゲーム 癒し系、配分を考えるだけ
- 0サムゲーム（ゼロ和ゲーム）zero-sum game 引き分けを除けば片方が利益を得て、もう片方が損失をこうむる
- 和が負のゲーム 両者にとってつらいが結局は配分を考えるだけ

## (2)ゲーム例2

プレイヤーplayer A：名探偵

プレイヤーplayer B：連続殺人犯

Aの戦略 strategy：a 1 指名手配 / a 2 現場に行って張り込み

Bの戦略 strategy：b 1 出て行って勝負 / b 2 逃亡

利得行列 Payoff Matrix 2

A \ B	B	
	b 1 出て行って勝負	b 2 逃亡
a 1 指名手配	+ 2 / - 2	+ 1 / - 1
a 2 現場に行って張り込み	+ 5 / - 5	0 / 0

プレイヤーplayer Bは、リスクの少ないb 2を選択する（Bにとっての優越戦略）

dominant strategy ）。すなわち、仮に  $b_1$  を選択した場合、プレイヤー player A が  $A_1$  ,  $A_2$  どちらの戦略 strategy を取ってきても、プレイヤー player B にとって、 $b_2$  を選択したときより不利になる。

逆に、A にとっては、最も損をしたときにその損をした中で一番得をする戦略「マクスミン max-min 戦略」が優越戦略となる。

以上を踏まえると、プレイヤー player A とプレイヤー player B が合理的な判断をした場合、行き着く解は  $(A, B) = (a_1, b_2) = (+1, -1)$  であって、このとき他に解となりうるものは存在しない。そのため、この解は安定してると言え、これを鞍点 saddle point と呼ばれる。

### 1 3 4 : 2 人非一定和ゲーム

(1) ゲーム例 3 : チキンゲーム ( 弱虫ゲーム ) chicken game の類

プレイヤー player... A ・ B 一人ずつ。

戦略 ( ストラテジー ) strategy...  $a_1, b_1$  : 突っ込む

...  $a_2, b_2$  : よける

利得行列 Payoff Matrix 3

A \ B	$b_1$ : 突っ込む	$b_2$ : よける
$a_1$ 突っ込む	- 10 / 10	+ 5 / - 5
$a_2$ よける	- 5 / + 5	- 1 / - 1

上記の行列を見ればわかるように、和が一定ではありません。これを非一定和ゲームと言います。

チキンゲームのポイント : 弱気ではまったくメリットがないが、両方が強気のままでは  
と大崩壊 catastrophe になっている。上記の行列では

$(A, B) = (a_1, b_1) = (-10, -10)$  がそれに相当。

非一定和ゲームの例としては、核戦略などが挙げられますが、昨今の北朝鮮の場合、そもそもマトモにアメリカに相手にされていないわけで、チキンゲームが本当に成り立っているかどうかは微妙なところ。

(2) ゲーム例 4 : 囚人のジレンマ prisoners ' dilemma

プレイヤー player... A ・ B 一人ずつ。

戦略 ( ストラテジー ) strategy... a 1 , b 1 : 黙秘

... a 2 , b 2 : 白状

仮定 : 証拠が挙がらないという前提の下で、ともに黙秘した場合マイナスはなしであるが、監視下に置かれたとき片方だけが黙秘した場合 ( つまりもう一方が白状した場合 ) 黙秘した側は、両方が黙秘した場合よりも大きな損失を得る、ということにする。

利得行列 Payoff Matrix 4

A \ B	B	
	b 1 : 黙秘	b 2 : 白状
a 1 黙秘	+ 10 + 10	5 + 15
a 2 白状	+ 15 5	0 0

解き方が 2 つある

1. 非協力ゲーム non cooperative game... 相手は白状すると考える... 各個人が己の利益を追求して、マイナスをくらうのは勘弁なので、両方が白状する ( a 2 , b 2 )

2 . 協力ゲーム cooperative game... 相手が黙秘してくれると考える...

両方が黙秘する ( a 1 , b 1 )

非協力ゲームは個人の合理性を集団の合理性より優先させた考え方

協力ゲームは集団の合理性を個人の合理性より優先させた考え方

このゲームにおいて、プレイヤーは上記二つの選択のどちらを選ぶかで悩む

= ジレンマ dilemma

米国では、このようなゲームの構造を利用して、共犯証言という司法取引の一種が取られている。

1 3 5 : N 人非一定和ゲーム ( N ( 整数 ) 3 )

プレイヤー player... A , B , C

戦略 ( ストラテジー ) strategy... h 1 , h 1 , h 1 : 法案

... s 2 , s 2 , s 2 : 修正法案

... g 3 , g 3 , g 3 : 現状維持

N 人ゲームの利得行列表は 2 人ゲームのままでは書きにくい

... ペイオフ payoff のみを考える

標準形で表すと、次ページのような行列ができる ( 次ページのような表記を 標準形 という )

## 利得行列 Payoff Matrix 5

strategy (payoff)			
	h : 法案	s : 修正法案	g : 現状維持
player A	1 0	4	0
player B	0	8	6
player C	5	0	9

多数決 + 非協力ゲームでは何も決定出来ない状態（上記の行列では1対2で否決されかねない！） 非協力ゲームでは解けない 協力ゲームなら説けるかも？

...連合 coalition（プレーヤー間の協力関係）の概念。  
主張を通すために全プレイヤーが協力することもある。

・連合の種類は5通りある

- ・ A B C...何も決定できない、考える必要なし。ここでは除外。
- ・ A - B C
- ・ A B - C
- ・ A - C B
- ・ A - B - C...とりあえず論理的には考える必要なし（ 最小勝利連合ではないから。  
ここでは過大連合）

### 最小勝利連合

あるゲームで得られる利得の量は決まっているので、出来るだけ少ない人数での連合の方が、自らの意図を通しやすいので有利である。

ただし、現実においては、会議の雰囲気などの理由で全会一致を取ろうとする時もある。

(1)特性関数 characteristic function

1. その連合の力
2. 獲得できるペイオフ payoff の量

の二つの要素によって決定される関数のこと。

$\overline{A B}$  の連合...利得が最大になるのは Strategy : s のときで、 $P \overline{A B} = 4 + 8 = 12$

$\overline{B C}$  の連合...利益が最大になるのは Strategy : g のときで、 $P \overline{B C} = 6 + 9 = 15$

$\overline{A C}$  の連合...利益が最大になるのは Strategy : h のときで、 $P \overline{A C} = 10 + 5 = 15$

上記より、 $\overline{A B}$  の連合は他の連合よりも不利であって合理的でないといえるから、 $\overline{B C}$  の連合、あるいは  $\overline{A C}$  の連合の二択になる。ただし、このとき A と B は、C に連合を持

ちかけることになり、不安定なゲームを展開し得る。なお、 $\overline{A\ B}$  の連合、 $\overline{B\ C}$  の連合ないし  $\overline{A\ C}$  の連合のような表記を、**特性関数形**と言う。

(2)コア core...N人ゲームにおける安定解

1. ある戦略によって得られる
2. 他のどの戦略によっても優越されない

標準形で表すと、次ページのような行列ができる。

利得行列 Payoff Matrix 6

	strategy (payoff)		
	h : 法案	s : 修正法案	g : 現状維持
player A	1 0	4	5
player B	0	5	6
player C	5	3	4

$\overline{A\ B}$  の連合...利得が最大になるのは Strategy : g のときで、 $P_{\overline{A\ B}} = 5 + 6 = 11$

$\overline{B\ C}$  の連合...利益が最大になるのは Strategy : g のときで、 $P_{\overline{B\ C}} = 6 + 4 = 10$

$\overline{A\ C}$  の連合...利益が最大になるのは Strategy : h のときで、 $P_{\overline{A\ C}} = 10 + 5 = 15$

ゆえに  $\overline{A\ C} > \overline{A\ B} > \overline{B\ C}$

と順位づけられる。このとき、 $\overline{A\ C}$  の連合は他に優越し、絶対的な優位を保つ。これを N人ゲームにおける**安定解**、ないし**コア core**と呼ぶ。つまり、 $\overline{A\ C}$  の連合は、安定解、またはコアである。

### 1 3 6 : 批判

(1)利得の数量化が出来るか？

ゲーム理論は元来、数学ないし経済学などで発達した理論であって、政治理論に応用できるかどうかは疑問である。

1. 価値の一元化ができるか？ すべてのモノを同じレベルで扱えるか？ (e.g. 信条の自由と取引の自由を足し引きできるか？ 思想の自由の価値と金銭の価値はおなじか？ 利益分配を、価値が一元化されない思想・信条等で測れるか？)
2. 価値の測定は可能か？ すべてのモノを数量化比較できるか？ (数量化は難しい) もちろん、ゲーム理論はこの課題に込んでいる (授業じゃやらないけどね)。

(2)認知と通信(註:認知...見たり聞いたりなどすること。心理学用語。)

1. 認知(周りの状況を知っていること)

主観的な人々に対して本当に客観的の把握ができるか?

何かを思ったときにどういう行動をとれるか?

レパトリー...投書、質問、火炎瓶、ウィルス培養 &c.: 本来、人間には無数のレパトリーが存在するはずではあるが、無意識的に制限されている。

**現実に対して人間はゲーム理論ほど正確に現実を認知していない。実際のゲームは不十分な認知の元で行われている。**

2. 通信

囚人のジレンマにおける協力・非協力など...現実問題として絶対の不信(100%非協力)あるいは絶対の信頼(100%協力)などというものは存在するか?

現実世界はグレーゾーンで動く。プレイヤー同士の関係は常に誤解、信頼、不信などにより、可変的なグレーゾーンの中で変化していく(e.g.米朝関係でも絶対的な対立ではない)。

(3)合理性 rationality

- 人間は本当に「合理的」に行動するのか? 利得に基づき、戦略 strategy を本当に合理的に決めているか? 「常に」合理的に行動するのか?(e.g.損と知りつつ無謀に突っ込む。その背後には合理性では片づけられない義理・人情・美学がある。同様に、バスターグン牢獄襲撃もその例で、突撃の時に利得計算はしてないと考えられる = moment of madness)
- こうした人間の合理性を前提とした議論はアメリカで発達した(プラグマティズム pragmatism 的)。合理性を打ち出す非常にアメリカ的な議論である。

\*\*\*\*\*

ひとやすみひとやすみ~

コーヒーでも飲んで気分転換しましょう。

先はまだまだ長いですよ、まだ半分終わってないしね。

こっちもタイプするのに疲れた。やれやれよくやってるね、ワシも。

不条理すぎて何やってるのか分かんなくなってきたヨ。

面白くないよね、この授業。

興味が沸かないというか、現実に対応していないっていうか。

まあこんなところで愚痴を言っても仕方がないですね、

さ、では次章に取りかかりましょ~

\*\*\*\*\*

## 200：政治的人間の理論

(内容無し。誰もノート取れていません。ノート取れている人がいれば、神。)

## 201：人間の考え方の展開

(1)18 世紀以前 (復習 112：歴史的源泉)

1．キリスト教の人間観...人間は理性を持たず、無謬の神に頼る。

神の作りたもうたエリートとしての人間。

2．ロック John Locke の人間観 (自己決定的人間観)

...自分の理性で生きる。

唯一理性を持った存在としての人間。

キリスト教、ロックのどちらも「人間と動物はまったく違う」という観点においては共通。

(2)ダーウィン C.Darwin 『種の起源』Origin of Species(1859)...進化論の概念が現れる

人間も動物の中の一つ species にすぎない。人間と動物の絶対的境界を設けない。

(e.g.それまで人間とチンパンジーはもともと別種。人間とチンパンジーは種の起源が同一)

しかし、人間は高度な精神生活を行うということで、まったく境界がなくなったわけではない。人間が全ての中で最高と考えている(e.g.「霊長」類)

(3)フロイト S.Freud 『精神分析入門』(20 世紀初頭)

「人間は合理的な存在ではない」...人間の心の中の非合理性に着目する。

「人間の行動は最終的には本能、無意識といった理性の及ばないものに支配されている。」

i.e.人間も動物の一種にすぎない。」

## 202：フロイトの人間観

(1)心の構造

フロイトは心の中を三つの部分に分けた。

1．イド id(it, es)...人間の心の最深層にあり、衝動(欲動)drive や本能 impulse と呼ばれるものにより、欲求の充足に向かって我々を突き動かす。

フロイトは19世紀の考え方を引きずっている...人の心を力学的に捉えている箇所があり、impulse や drive を一種の力であると考えている。

・フロイトによる基本欲求

- a エロス eros...人間が生きていくことに対する欲求。種として自己保存を願うほか、個人としての自己保存を願う。

エロス eros はリビドーlibido という力によって動かされる。

エロス eros、リビドーlibido の2つは精神分析学の大多数が認めるところ。

- b . death instinct...破壊衝動、死の本能：物的破壊、殺人願望、自殺願望

death instinct はタナトス thanatos という力によって動かされる。

リビドーlibido とタナトス thanatos は正反対のベクトル、両者が均衡することで人間のバランスが保たれている。

2 . 自我 ego、self

イド id の内で外の世界と接触する部分が発達したもの。

欲求の充足のために外の世界に働きかける必要があるが(e.g.赤ん坊は不満があれば泣いてアピールする。すなわち自分のイド id のみに従って行動する。)、ある程度の年齢になってからは自分のイド id のままに行動することは出来ない(2,3歳程度まではイド id の趣くままに行動しても良い)。

イド id が充足を得るためには、様々な欲動をコントロールする必要がある。

欲動に働きかけコントロールを行うのが「自我」、コントロールの方法は2通り

- ・ 意識的 conscious 機能：知覚・記憶・学習(e.g.一度口の中に入れて苦かったものを二度目は口に入れない)。自分で何をしたか知っている。
- ・ 無意識的 unconscious 機能：欲求が満たされないと自我は傷つくが、現実生活において、欲求を全て実現することは不可能である。自分でも気が付かずに働いているイド id から出てきた欲望や超自我から自我を守るために、無意識のうちに欲求を隠したり、抑え付けたりする(自我防衛)。

id    欲動    <自我>    命令    超自我

3 . 超自我 superego

社会の倫理的基準を内面化したもの、徐々に自分の中に取り込んでいったもの。自我 ego が発達したもの。もともとの自らの欲望とは無関係。

「良心」「道徳的態度」「罪悪感」

超自我は2つの働き(命令)を自我に対して発する。

- a . 批判的機能...超自我による自我への批判。良心の呵責。(e.g.レポートが終わっていないのに遊んでいていいのか?)
- b . 自我理想 ideal ego...理想的自分を描き、理想と現実との差を埋めるように自我に対して命令することによってイド id を抑制し、自我をイド id の衝動から守る(e.g.遊びたいけど、遊んでいたら東大入れないしなぁ~)。自我 ego はコントロールセンター(コントローラー)であるが、欲求に弱いため、超自我が自我をフォローする。

ちょっと簡単に考えると

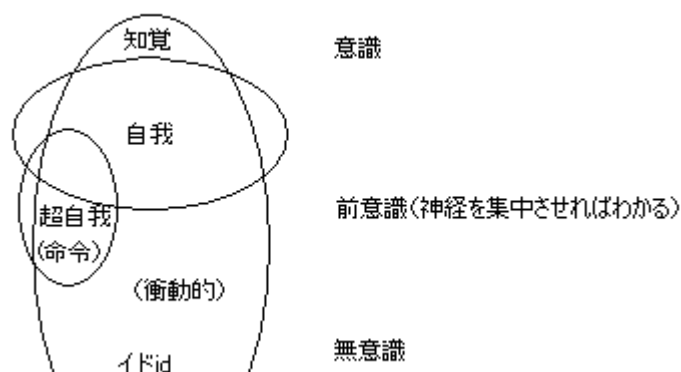
「悪魔のようなイド id のような超自我が自我を舞台に葛藤を行っている」  
 というように捉えることも出来る。自我はイド id から来る衝動、超自我から来る命令を受け止め、ある程度コントロールした上で外の世界に発するのだ。

## (2)心の働き

意識的なもの無意識的なものがある。無意識の発見 = フロイトの最大の功績  
 無意識が非合理的であるということをフロイトは合理的に示した。

フロイトの「精神」図...壺をひっくり返したような形

- ・先端は外の世界を認識する知覚
- ・上の方が自我
- ・イドは底のないもの
- ・上の方が意識、下の方が無意識



フロイトはこれらに対応する脳の部分があると思っていた。そして最近の研究では、フロイトの予想通りではないものの、欲求などに対応する部分があることが分かってきた。

### (3)その他の重要な概念

#### 1 . (精神的) 外傷 trauma

本来自分では意識されない、心理的に傷を与える何かしらの辛い経験・体験を、自分にとってなかったことにしていたり、たいしたことではないと思い込んだりする。そうしないと死の本能が勝ってしまい、死に向かってしまうため、そうした経験・体験を、無意識の領域に追いやり抑え込んでしまう。ただし、抑え付けるために、ひずみが発生してしまい、パニック障害などになったりする可能性がある。

#### 2 . 防衛機能 defense mechanism

- ・イドからの欲動が実行出来ない...不安を感じてしまう
- ・自我が超自我からの命令を遂行できない...罪悪感を覚えてしまう

そうした感情に対して「無意識下で行われる防衛」のこと。

- a . 抑圧 repression...不安や罪悪感などの記憶を無意識のかなたに押し留める。
- b . 置換 displacement...抑圧された感情が本来の対象から離れてどこか別の対象に働く (e.g.失恋 スポーツ、勉強) 。
- c . 反動形成 reaction formation...とうてい充足できないような衝動を、無意識のうちに自我が認められる、場合によっては正反対のものに変えてしまう (e.g.憎んでいる父親を懇意に扱う)。
- d . 隔離 isolation...出来事などから感情を切り離す。ある体験があまりにもつらい感情を誘発するものであったとき、記憶と感情を切り離す。辛い記憶・感情を伴う出来事を映画の1シーンのようにしか覚えていず、自分の感情を無意識のうちに切り離される (e.g.自分の身の上にあった大きな悲劇的な事故を、無意識のうちに単なる歴史的事実のように語る)。
- e . 同一視 identification...ある対象を自分の中に取り入れてしまい、その対象が考え、感じ、行動するのと同様に行動する。自己 self と対象を一体視する (e.g.特攻する際の兵士の心境：自己と母国の同一視を行うことでエロス eros に反する行動が取れる。「自分は天皇および日本と一体であり、自分が死んでも日本は生きていく」)。  
註：この定義はこの分野のみの、特有なものである。  
cf. 自我同一性 identity E.H.エリクソン Erikson  
心理的一体感 identification (心理学の領域)

- f . 合理化 rationalization...あることをしたときに、無意識的にもっともらしい理由、社会的に認められているような理由を本当の理由（自我が傷つく理由）と置き換える。自分の自我が傷つくような理由が表に出ることを避ける(e.g.すっぱい葡萄の論理 sour grape theory（イソップ物語）...狐が木の高い部分にある葡萄が取れないのを、「あの葡萄はすっぱいから取って取らないのさ」とする）。

## 210：政治的人間

（省略 授業で取り扱っていませんし、試験範囲でもありません。）

## 211：「政治人」の概念

（省略 授業で取り扱っていませんし、試験範囲でもありません。）

## 212：政治人の成立

（省略 授業で取り扱っていませんし、試験範囲でもありません。）

## 213：類型学

（省略 授業で取り扱っていませんし、試験範囲でもありません。）

## 214：批判

（省略 授業で取り扱っていませんし、試験範囲でもありません。）

以上の210番台は、省略とさせていただきます。ただし過去問にはこの範囲からの出題もありますので、過去問を網羅したい方、政治学を追究したい方、上記の内容に興味のある方、物好きな方がいらっしゃいましたら、昨年以前のシケブリから参考用のプリントを作りますので、申し出てください。

## 220：パーソナリティと政治の理論

### (1)起源

第二次世界大戦後、心理学が急速な発展を遂げる(ラスウェル Lasswell を中心に。ラスウェルはフロイトの精神分析の観念を現代政治学に植えつけたアメリカの政治学者。この括弧内は授業で説明されていないので覚える必要なし)。

人文科学の中で最も早く理科学的な手法を採用。心理学(人文科学) - 医学(自然科学)

心理学 実験を伴う人文科学。

様々な心理学の発達に触発されて、ラスウェルよりいっそう複雑な F.I. グリーンスタインの理論が誕生。F.I. グリーンスタイン著「政治的人間の心理と行動 Personality and Politics」(勁草書房 1969、原著 1961)

## (2) パーソナリティと人間行動

<考え方>

### 1. 人間は環境に対して「選択的」に反応する。

フロイトは、人間は環境の影響を全て受けていると考えていた。小さいときの環境は全てその人間に反映される...トラウマ trauma、エディプス・コンプレックス Oedipus complex など。

(注：エディプス・コンプレックス... (心理学) 男の子供が無意識のうちに母親に愛着を持ち、自分と同性である父に敵意を抱く傾向。父と知らずに父を殺害し、生母と結婚したギリシア神話のオイディプスにちなんでフロイトが提唱した語。《以上『広辞苑』》ie. 母親に性愛を向けるが、父親に嫉妬と恐怖を抱く。)

ある人にとってはトラウマになるようなことも別の人によってはトラウマにならない。

周りの部分を、ある種のフィルター（取舍選択）にかけてから自分の心に刻み込むのではないか？

人間は環境に対して、その人の持つ性質に応じて選択的に対応する。

ただし同じような環境でも、人間が同じような影響を受けるとは限らない (e.g. 双生児)。

### 2. 生活体 organism として持つ性質... 選択を決める

人間が、どのような選択をするかはオーガニズム organism としての特徴による

図式で表すと、 $B = f(o, e)$  ただし、

B = behavior

o = organism

e = environment

の意である。

## 2 2 1 : パーソナリティ personality とは何か？

(1) 基本的な考え方

SI O R (S O R) 図式 : organism に対して刺激を与えると反応が起こる。

(SI : Stimulus 刺激、O : Organism 生活体、R : Response 反応)

多様な刺激を与えても反応に一定の規則性がある場合

その規則性を持った反応 R = パーソナリティ personality の反応

つまり、その規則性がパーソナリティ personality と考えられ、  
その規則性をパーソナリティ personality と定義する。

(2)定義

1．目には見えず、人間のパーソナリティはどこにあるかを示すことはできないが、現実  
に存在し、多様な刺激に対する反応の規則性をもつ。

(目には見えないこと自体は、今後の脳医学の発達によって将来的には具体的な場所の特  
定が可能かもしれない)

2．パーソナリティ personality は複数の部分に分かれて存在しており、様々な部分の規  
則性がある。

- ・認知 cognition の規則性
- ・感情 affection の規則性
- ・思考 consideration の規則性
- ・自我同一性 identity の規則性...こういう行動をするのは「自分らしくない」という  
反応など

2 2 2 : 政治行動の基本仮説

(1) E P R 図式 (グリーンスタインのモデル)

E : Environment 政治アクターの環境

P : Predisposition 政治アクターの素質、気質、パーソナリティ

R : (Political) Response 生み出される政治的反応

の意である。

註 1 : SI O R の図式と骨組みは同じ。

註 2 : Predisposition という言葉は、Personality という言葉を使いたくないがゆえに用  
いられたと推測される (パーソナリティ personality は日常的に使う言葉であり、意味を  
厳密に定義する学問の場においては、非常に使いにくい。なお、この推測は、あくま  
で高橋先生の推測にすぎない)。

(2)predisposition の拡大図 ( : 相互作用を意味する )

Perception ( 知覚 )	
conscious orientation ( 政治に関する意識的志向 )	
basic personality structure (基本的パーソナリティ構造)	
biological underpinning ( 生物的土地 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知</li> <li>・ 自己と他者の関係</li> <li>・ 自我防衛</li> </ul>

- I. ( 環境に対する ) 知覚 perception... 評価や判断を含まない。
- II. 政治に関する意識的志向 conscious orientation... 意見 opinion、価値 value、信念 belief、イデオロギー ideology ( ideology の定義 : 信念と価値の強固な複合体であって、実際は分類しがたい )。
- III. 基本的パーソナリティ構造 basic personality structure... 認知 cognition ( 価値判断が加わる )、自己と他者の関係 mediation of self-other relationship ( 他者を考え自分の欲望をコントロールする。自他の関係を仲介する。他人との折り合いをつける。このようなとき、我々には社会的な心理が働いている。 )、自我防衛 ego defense
- IV. 生物的土地 biological underpinning... 生物的に固定されている部分。基本的パーソナリティ構造を大きく規定する。人にとっては逃げられない体質や気質を持つ ( e.g.感情を鼓舞するドーパミンの分泌。また別の例では、お腹が空くことで上機嫌になる人というのは存在しない )。

かつ、 という影響の与え方をする。

( e.g. どういう報道に触れるかによって、意識的志向が決定される反面、意識的志向があれば、その種の報道を好んで見ようとする )。

意識的志向と無意識的な基本的パーソナリティ構造は密接な影響がある。知覚は意識的志向に影響を与え、意識的志向は知覚を限定する。 グリーンスタインは 基本的パーソナリティ構造 basic personality structure を重視した。

## 2 2 3 : 特徴と批判

### (1)特徴 方法論 methodology

グリーンスタインの理論は方法論に過ぎず、具体的なものが存在しない(どのようなパーソナリティの人がどのようになるか、といったことが書かれていない)。グリーンスタインの理論は、モデルそのものではなく、モデルを作るためのツールでしかない。すなわち、分析する際のツールにはなるが、あくまでもツールである為、その「分析の結果」を使わなければならない。それ自体から何かを言うことは出来ない。

発表されて以来、あまり使ったものが存在しない 使いにくい理論？

### (2)特徴 方法論としてよい点

- ・レベルの異なる、様々な心理学の統合：知覚、社会、認知、生物など種々のレベルの心理学を統合している。そのため、使いこなせれば、応用範囲は広い。

- ・ケーススタディとして、様々な事例(対象)に用いることが出来る。

1. 単一事例の分析...個人の研究

2. 類型論の研究...複数の人々をいくつかのパターンに分ける(e.g.革命化のタイプの研究、米大統領の4つの類型)

3. 集団の意識的志向の調査。集団研究...政治意識の世論調査、国民性格論、集団の特徴を見出す (e.g.環境保護に関わっている人のパーソナリティ personality 研究)

### (3)批判 E P R図式

そもそもグリーンスタインの理論は Si O R図式(SOR図式)を前提としているが、Oは刺激に直接反応するのか？ グリーンスタインの理論では、人間は環境からの刺激をそのまま受け取っているのではなく、記号として受け取っているに過ぎないのが現実である。しかし、もしOが選択的に反応するのであれば、より複雑なものが必要ではないか？ 異なった図式である Si O Sg 図式(SOS図式)の方が妥当ではないだろうか？

Si O Sg

Si : sign 記号

O : Organism 生活体

Sg : significance 記号対象

つまり Si そのものがOにRさせるのではなく、Si がOに、Si が意味するものであるところの Sg を感知させているのであり、刺激よりも刺激が背負っている意味の方が重要なのだという批判が展開された。

(e.g.赤信号を見た場合の反応

SI O R図式 (SOR図式): 赤い光(SI) O ブレーキ(R)

Si O Sg 図式 (SOS図式): 「赤」信号(Si) O 「止まれ」(Sg)

つまり、赤という色が「赤信号」を意味し、その赤信号は「止まれ」という意味を持つ記号という認識が働いているのではないかというのがSOSの考え方である。)

## 2 2 4 : 象徴的相互作用論 symbolic interactionism

もし、グリーンスタインの議論をもっと魅力のあるものにしたいならば、以下の理論を取り入れれば良いと思われる。

### 1 . 相互作用 interaction 重視

個人と個人重視

人や社会そのものといった、個別の要素だけを個々に注目するのではなく、相互作用 (関係) を見ることで、その関係の中で物事がどう変化するのかを観察する。

### 2 . 人間の行動は、視座構造 perspective によって決定すると考える

視座構造: 物事に関する一貫した考え方

意味づけ(記号)と示唆 (意味を持つ刺激) 視座構造を形成?

記号 sign と象徴 symbol のやりとりによって視座構造が形成され続け、行動はそれにより決定される。

## 3 0 0 : 政治集団の理論

(例によって内容なし。3 0 0 番台の導入にすぎません)

## 3 0 1 : 考え方の歴史

### (1) ギリシア・ローマの時代

社会 集団 個人

ただし、(現実には) 社会は存在するが、社会は市民によって構成されていて、市民は全て平等であるため、(理論としての) 集団と言う概念は少なく、ほぼ存在しないと見てよい。社会と個人に関する考察程度はあった。

### (2) 中世

a . キリスト教の世界観...絶対者である神を中心として、個人はみな自らの信仰や神へ

の愛 agape によって神と直に結びつく。個人の間は神の前に対等である。この体制を、神の国 civitas dei(civitas = community, dei = Deus)と言う。集団の概念は存在しない。

b . 封建制...領主・騎士・農奴という身分制度が存在。

しかし、社会は有機体であるという見方が強く、それぞれの身分を特定の集団とは考えない。異なる部分が集まり社会をつくる。...有機体的社会観 (e.g.人間 = 足 + 顔 + ... + 手、植物 = 根 + 花びら + ... + ...。社会は花のようなモノで、パターンリスム的な考えによって、領主 lord は花びら、騎士 knight は茎、土地に縛られている農奴 serf は根や球根に例えられる。社会全体は一つであるとする。社会を分化して考えない)

社会全体のための認識しかなく、個人や集団の概念は存在しない。

cf.ただし中世末期には現実の集団は発達している(e.g.ギルド(職人の集団)制、都市(地域の集団)制など。理論としては未発達のままに置かれる)。

## (2) 近代前半

アルトジウス Althusius の政治理論

中世後半では栄えた都市やギルドが衰退し、絶対主義国家が台頭する。絶対主義国家では国全体が国王個人の財産と考えられ、その国内で暮らす人々も国王の財産の一部と考えられた(家産国家)。絶対主義国家では国家と宗教が分かち難く結ばれていた(e.g.カトリック教会 catholic)から、最初に集団の理論に気づいたのは、正統派に対する異端、教義問題に劣勢な立場の者、宗派対立・宗教戦争に晒されている者などの、宗教的なマイノリティ達であった。彼ら被迫害者は、「少数者の中でも遵守すべき権利はある」とし、集団の理論を元に自然法概念・理論を形成した。

以下まとめ。

正統と異端の問題...宗教戦争

少数派の為の政治理論が作られるようになる 自然法理論

自然法理論の老家: アルトジウス Johannes Althusius(1551-1638、スペイン王国の植民地であったオランダ(ネーデルラント)出身。抑圧される立場の人間ですね)

### a . 社会契約説

- 様々な社会集団は契約によって生まれる。
- 集団が集まってより上位の集団を作る。...家族 村 地域共同体 共同体 civitas
- 一番基礎の集団というのは家族である。

- 上級社会をつくるのは下級社会である。
- 上級・下級というのは上下関係を意味しない。

契約の当事者が個人であった近代後半の、ホッブスを中心とする社会契約説とは異なる！

#### b. 多元主義的国家論 pluralism

- 国家もひとつの社会集団に過ぎず、特別なものではない。
- 国家だけが権力を独占しているわけではない。
- それぞれの集団がそれぞれの権力を持っている。
- 国家は他の集団と比べ、相対的な優越状態にあるだけである。(他の集団の調整を出来るから)
- 国家の対等を主張するアルトジウスの議論は絶対主義国家が隆盛を極めるこの時期においては時代に逆行することとなったが(もちろんオランダでも絶対主義が進行した)のちにイギリスおよびアメリカで発達することになった。

意味：現実には強大化してきた国家権力を、政治理論の上と云えども特別な位置から引きずり落とした。人々を抑圧迫害した場合に抵抗する一定の理論となった。

実際の事実としては絶対主義：国家の持つ権力は非常に強大でそれぞれの集団は国家の下におかれる。

実際の事実を事実として認めてしまっは哲学も理論も存在しないが、人間は、より正しい・幸せな状態を目指すゆえに、生成した理論・哲学を用いて事実を変化させようとする。

比較：伝統的(一元的)国家論

国家と言うのは特別なもの。絶対的なもの。

- 加入脱退の自由がない(他のボランティアグループは加入脱退できる)。
- 特別な強制力がある(合法的に殺人・金の徴収を行っている)。
- 国家は永久的である。
- 国家は他の様々な集団と並存しつつも、相対的に優越。
- さまざまな集団の間の調整役を勤める。

とは言っても伝統的国家論には無理がある。というのは、国家を特別視するために建てられた理論であるため。

伝統的国家論は

ピラミッド型の構造を持ち、頂点に国家が存在する。

一方、多元的国家論は山脈型で、国家は他の社会集団と同列にあるが、調停の役割を与えられている点で若干、他の集団に優越する。

cf. civitas...アルトジウスは、最上級社会に共同体 civitas という名を与え、国 state という言葉を使わなかった。なぜなら、state には、その下に多くの集団が支配される、というニュアンスがあったからである。アルトジウスは、あくまでいくつかの地域社会の集合体が最上級社会であると考えており、単なる集合体 (= civitas 共同体) である以上、上から下への支配力は働かないとして社会契約論を唱え、強大化する絶対主義に対抗しようとしたのである。

### (3) 近代後半：絶対主義 absolutism、近代政治原理

現実 圧倒的な絶対主義国家が権力を集中させていた時代

しかし一方で中世以来の貴族権力の特権が存在(e.g.領主裁判権)

絶対王政進展のために、封建の遺制(貴族・ギルド)を除去し、国内をより均一化させ、貴族の特権を奪い取り、貴族の政治的独立性を無くす必要がある ボーダン Jean Bodin の理論が活躍

#### 1. ボーダン Jean Bodin の主権論

封建制に対抗し、君主が絶対君主となる過程で、昔は並立的に並んでいた権力を君主より格下にしなければならない。「国王が主権を持っている、国家主権は絶対である」

同一の裁判・同一の経済を理想とする。

#### 2. 近代政治イデオロギー

##### 絶対主義に対抗。

国家を擁護する必要性がある。とはいえ貴族の特権がある程度残っており、貴族に権限を認めるわけにはいかない。

よって国家がもつあまりに大きな権力に対抗するため、個人も力を持つ必要がある。

トマス・ホブズ Thomas Hobbes 「万人の万人の為の闘争」(1530 ~ 1596) ...世の中には  $n \cdot (n-1)$  個の闘争がある 闘争の代わりに契約を用いて解決する。議会主義を用いて、国王の牽制を行う。

ジョン・ロック John Locke : ボーダン Bodin の考えを換骨奪胎し、国王ではなく議会が主権を持つとした。「国民が主権を持っている。国民主権は絶対である」

ジャン・ジャック・ルソー Jean Jacques Rousseau : 「主権者が王様だというのが、それは数年に一日だけのものだ」議員は当選してしまえば、有権者の意識は反映しない

当初：国王を擁護する為の理論

最後：国王の絶対権力を否定(一般意志に基づく人民主権主張)。

#### 近代化する間に集団の理論が抜け落ちた。

## (5)まとめ

社会(国家) 手段 個人

個人・社会については考えられるが、集団についての理論が欠如することとなる。

・現実を見ると政治はごく少数の意見によって決定している...大部分の人・集団は政治を考える必要が無い(そもそも政治的関心がない)...中間概念は不要

・個人は平等 平等な個人が等しく権力を持っている、平等な権力を持つ人が集まって社会を形成する...中間概念は不要

cf.古代ローマやホッブズ、ロックらの考え方

- ・ 一人一人の個人が正しければ、全体(=社会)も正しい。
- ・ 一人一人は平等に政治的な権力を持っている。

cf.ボーダンやマキアヴェリの方

社会は王や枢機卿などのエリートが運営するものである。

それゆえに、集団も個人もなく、国家のみが存在すればよい。

上の2つの cf.で、どちらも集団の概念が欠落しているのがお分かりだろうか。このように、集団の問題が政治理論で取り上げられたことは一時期を除けば、なかったのである。

## 3 0 2 : 階級 class の理論

マルクス主義：集団の概念を取り入れる

(1)階級分裂 class division

・社会は支配階級と被支配階級の二つの集団から成り立っている。また個人がどちらに帰属するかは生産手段の有無によって定められる。

生産手段を持つ...資本者階級

生産手段を持たない...労働者階級

(2)階級利害 class interest

支配階級の利益と被支配階級の利益は対立する。

有機体的社会観はまやかして、幻想にすぎない( 3 2 ページ「b.封建制」の欄参照)

ただし、ある階級に所属する人々の利害はそのまま共通ではない(階級利害は階級すべての人の利害をまとめたものではない)。

同じ階級に所属する個人が共通する状況におかれると、利害共通・共通する要求が発生し

てしまう。これをマルクスは階級利害と呼んだ。階級利害は総体として要求・利益関心となる。

しかし、階級利害は自動的に意識されるとは限らない。というのは、マルクスの定義では、階級に所属する人は共通する状況に置かれており、そういう共通する状況から、当然出てくる欲求や利益関心が階級利害である。ゆえに、ひとりひとり（すなわち個人であって、集団ではない）にとって、真の利益関心が何であるかわかっていない場合もある。

### (3)階級意識 class consciousness

- ・階級利害を理性的に認識する（感情的に、ではない）と生まれる意識のこと。
- ・階級意識はいろいろなものから成り立つ
  - ・連帯感...(e.g.メーデーなど各種の集会)
  - ・自分達の階級が持つ歴史的・社会的使命...(e.g.支配階級は社会を抑圧している。プロレタリアート・労働者階級は最底辺にいる。だから、最底辺にいるプロレタリアート・労働者階級が戦って支配階級を追放し、世の中の全ての労働者階級を解放すれば、より上位にいる他の全ての人も解放される。ここに革命を起こす正当性がある、とする。)
- ・式で表すと、  
$$G = f(Ir, Cs)$$
  
と表せる。ただし、  
G:group 階級  
Ir:interest 利害  
Cs:consciousness 意識  
の意である。
- ・階級は階級利害に目覚め、階級を意識したときに形成される（階級利害を認識し階級意識を持てばそこにその集団が成立する）。
- ・労働者階級というものは階級利害の対立があり、その利害対立を理性的に認識することで成立する。

### 3 1 0 : 集合的選択 collective choice...K.J. Arrow と M. Olson の論理

集合的選択とは、グループ group の選択ではない。コレクティヴィティ collectivity(集合体)とグループ group は異なる概念である。

コレクティヴィティは全体それ自体ではなく、ひとつひとつ拾ってきたものである。

集合体はバラバラの個人（構成員）の寄せ集めである。

対して、集団（グループ）は、決してばらばらな個人（構成員）ではない

- ・ 共通の目標や関心がある
- ・ 地位と役割 status and roll が分かれていて、地位と役割に対応する規範 norm がある

(e.g. 講義

教官と学生という地位 status が存在し、それぞれに役割 roll が存在する

教官...壇上に上がって、決められている内容の講義を行う

学生...勉強をし、テストを受ける

地位と役割の混乱、役割からの逸脱は存在してはならない。

- ・ 学生が講義をして教師が後ろのいすに座る...地位と役割の混乱
- ・ 授業以外のことを話してはならない...役割の逸脱 )

- ・ 「われわれ意識」がある。普通は個々人が独自の判断で選択するが、集合的選択を迫られることがある。

### 3 1 1 : 起源

(1) 近代の人間観 自己決定的人間

ジョン・ロック John Locke      自己決定的人間観      自分自身の独立した判断により、誤ることなしに行動できる。

ルソーもこの自己決定的人間観の立場に立つ。

(2) ベンサム J.Bentham(1748 - 1832)の功利主義 utilitarianism

- 人間は幸福を求める。
- 人間の行動の原則は幸福の増大・追求である。人間は幸福の増大を図るため行動する。
- 理想の社会とは最大多数の最大幸福 greatest happiness of the greatest number が達成されたものである。

最大多数の最大幸福 greatest happiness of the greatest number

社会の中の、全てのメンバーの幸福は一致しない。Aの幸福を増やすとBの幸福は減ってしまう。一番いい社会とは、幸福を  $(A + B + C + \dots + \dots)$  で表すとして、これが最大となるものである。ただし一番いい社会においても、全体として正しいものが一つあるわけではなく、一人一人の利得は相反する。

言い換えれば、集団の利益関心 interest ではなく、個人の利益関心 interest の総和によって、最大多数の最大幸福の定義は成り立つ。

(3) J.S.ミル J.S.Mill(1806-1873) **多数決原則**

ベンサムほど楽観主義ではなく、集団の中で利己的な決定がなされることもあると主張する。とはいえ、ベンサムの理論を継承し、J.S.ミル流に発展させたのが多数決原則である。彼は、多数による盲暴もあるが、多数決が一番正しいやり方であるとする。自由主義 liberalism の価値観をあくまで守りつつも、個人的利益関心 private interest を否定してはならない。

**多数決原則**

- i. 個人的利益関心 private interest を守る  
個人の思想・意志決定は集団の思想に優越する。個人は個人的利益関心に沿って動く。ただし、ごく少数は個人的利益関心を離れて全体の利益を考える(e.g. 本四架橋は全体の利益が考えられていない例の一つ。3本の架橋を1本にまとめれば全体の利益の観点に立っており、3本とも建設してしまえば個人的利益の観点に立っている。)
- ii. 個人的利益関心はバラバラである  
各個人が自分の利益関心に基づいて意志決定をすると、その決定はバラバラで一致しない。しかし、全体の利益を考える少数の人たちの意見は一致している。
- iii. 全ての人々が討議に参加する  
全ての人々が討議に参加し、その中で正しい意見は何かという「教育」propaganda が行われる。この背景には、個人の自由を許容すれば、それ自体を享受できるだけでなく、全体の正しい決定さえ行われるとする考えがある。すなわち、個人が意見を出しても、全体のうちの一部は一番良いことを考えているはずであり、わがまま言ってもそのうち一番良いところに収斂してしまう。これが多数決のメリットである。(propaganda は今日では屈折した意味を持つものの、19世紀後半から20世紀前半までは「正しい宣伝効果」ないしは「教育」に相当した。また、わがまますを許容しないのは全体主義的である。)

以上のように、どのようにしたら個人の自由を寛容にした社会において(前提)全体にとっての正しい決定が行われるかという課題を、J.S.ミルは考察した。

近年では J.S.ミルの理論の問題点を踏まえて、熟慮民主主義 deliberative democracy の理論も登場している(熟慮民主主義の内容には今回は立ち入らない)。

### 3 1 2 : 基本的な考え方

わがままな個人を集めたものが集団であり、自由主義 liberalism のもとに、最初に個人の自由を認めつつ、なおかつ社会全体として結果的に正しい決定がおこなわれるようになることを志向した。これができなければ個人の自由を認めずに社会全体で正しい決定を志向するか、社会全体の正しい決定をあきらめ個人の自由を志向するかいずれかを二者択一で選ばなければならない。個人の利益関心を抑圧することなく、各々の利益関心を尊重した上で、最良の決定をすることを目指した。

式で表すと、

$$G = f(I_d)^2 = I_d$$

ただし

G : Group 集団

I<sub>d</sub>: Individual 個人

: 総和

の意味である。

### 3 1 3 : ケネス・J・アロー K. J. Arrow

一般不可能性定理 general impossibility theorem

[参考] ケネス・J・アロー 『社会的選択と個人的評価』 (日本経済新聞社)

佐伯胖 『決め方の論理』 (東京大学出版会) (先生曰く、「面白い」らしい...)

一般的に全ての人に利益を与えるのは不可能である。

(1) 前提となる考え方

複数の選択肢 alternative(s) が存在しており、その選択肢の中から任意の 2 つを比較し、選好 preference (註: 「選考」ではないことに注意されたし)、または無関心 indifference を決めることができる。無関心であるという選択肢は、個人の自由として当然のことながら許容される。

選択肢 x, y について次の計算規則が成り立つ。集団を形成するためには最低で 3 つの選択肢が必要であるが、ここでは概念および記号の説明のために 2 つの選択肢しか取り上げないのみ取り上げる。

$x > y$  (A は y より x を選好する)

$x < y$  (A は x より y を選好する)

$x \sim y$  (Aはxとyに無関心である)

選好記号はいわゆる大小関係を表す「 $>$ 」ないし「 $<$ 」記号と微妙に異なるので注意すること。

では本論に入る。

3人という最低限の集団であって、選択肢が3つあるとする。このとき、例として、

A :  $x > y > z$

B :  $x > z > y$

C :  $y > z > x$

集団としては全体における決定をせねばならないが、3人は上記の選考をしたとする。これを問題が生じないように(選好 preference の違いを適切に処理した上で)解くのは非常に難しい。次に説明する。

## (2)アローArrow 以前の理論

### 1. コンドルセ Condorcet の理論

フランス革命後に活躍。フランス革命が発生し普通選挙が実施され、平等が強く意識されたため集団の意志を決定する理論の発想が出てきた。

2 つずつ選択肢を取り出す。

取り出した2つの選択肢について勝敗を決める。

以上の , を繰り返せば順位は定まる。

(1)の例を用いれば

xとyを取り出し勝敗を決める xが勝つ

xとzを取り出し勝敗を決める xが勝つ

yとzを取り出し勝敗を決める yが勝つ

であるから、順位は $x > y > z$ と決定することができ、xをコンドルセ式勝者と呼ぶ。しかしながら、コンドルセの方法は順番しか考えていないため、もし誰かが勝者となった選択肢を嫌うとしたら問題となる。そこで解決のために好き嫌いの強弱の表現も考えなければならないというのが次の段階である。

### 2. ボルダ Borda (オランダ) の理論

総合順位を、点数制にすればコンドルセの理論が抱えた問題は解決すると考えた。

(1)の例では、1位7点、2位3点、3位1点とすれば、それぞれ

$x = 15$

$y = 11$

$z = 7$

となって $x > y > z$ が決まる。しかし、ボルダの理論では点数が一定であるために、

非常に嫌いで選びたくないものには点数をあげたくないという意見が反映されていない。すなわち、強さは問題にしているが個人の1位と2位、2位と3位の間の思い入れの差を表現し得ない理論である。

### 3. 持ち点方式

各投票者は自分の持ち点を持ち、それを自由に分配できる。

(1)の例では、各人に10点を与えて投票者が選択肢に配分すればよい。

A :  $x = 6$  ,  $y = 3$  ,  $z = 1$

B :  $x = 5$  ,  $z = 3$  ,  $y = 2$

C :  $y = 9$  ,  $z = 1$  ,  $x = 0$

と配分すると、 $x = 11$  ,  $y = 14$  ,  $z = 5$  となり  $y > x > z$  を得る。しかしこれでも問題は残る。配分は個人の中でするため、配分した各人の点は個人間で平等であるという保証はない(14点中の1点と、5点中の1点は重みが異なる)。とはいえ、今日でも各賞の投票ではよく行われる方法である。買収工作も容易であるから、各対象に配分する点数の上限が定められていることも多い。

問題点 投票者のパラドックス voters' paradox

仮に以下のような選好順位が生じた場合、どのようにすればいいだろうか？

A :  $x > y > z$

B :  $y > z > x$

C :  $z > x > y$

この場合、コンドルセ方式、ボルタ方式では決まらない。持ち点方式では順位は決まる可能性はあるが、個人間の点の平等性が確保されるかどうかは微妙である。この種の選好順位は、どの方法をとっても決定不可能状態となって、一定の解答は存在しない。この数式証明はアローが行っているが、数式中心のため、また先生もやりたくないため授業では省略。以下はその概念からとらえる証明の過程。

### (3)アロー Arrow の 6 条件

前提：順位だけを考慮して、解答が出せないならば、強弱という条件を付け加えた状態でも答えは出せない。(ゆるい条件下で解答が出せないならば、きつい条件下での解答はもっと出しにくい) 順位のみを考える。

以下にアローが考えた6つの条件を記す。

#### 1. 連結律 connectivity

個人は選択肢  $x$  ,  $y$  について  $x > y$  ,  $x > y$  ,  $x \sim y$  のいずれかで自らの趣向を表せる。わからない、というのはあり得ないとする。以上のように、最低2つの選

択肢があればいずれかで表すことができる。連結律は合理性の条件である。

## 2. 推移律 transitivity

全ての選択肢  $x, y, z$  において、

$x, y, z : x > y$  かつ  $y > z$  ならば  $x > z$  が成り立つ。

ただし循環選択 ( $x > y > z > x > y > \dots$ ) は起こらないとする。

推移律は合理性の条件である。

## 3. 領域無制約性 unlimited domain

すべての選択肢に対してどのような選択順序を示しても構わない。ある選択をしたとしても周りはその個人の意志を尊重する。

領域無制約性は自由主義 liberalism の条件である。

## 4. パレート最適 Pareto Optimum

集合的選択を行うならば、集団を構成する個人の利益を可能な限り尊重する。

また、集団的決定(註：多数決性とは異なる。e.g.参照。)で損をする人を一番少なくする。このような状態をパレート最適と呼ぶ。選択肢が2つならば多数決性を取ってもいいが、3つ以上ならば多数決を取るのは個人の利益が具現化されにくく危険である(cf. 過頭性の鉄則 規模が大きくなれば疲弊する。「寡頭性」ではないことに注意)。

(e.g.パレート最適状態

10人中9人： $x > y$     1人： $y > x$      $x > y$

10人中9人： $x \sim y$     1人： $x > y$      $x > y$

(多数決性ならば  $x \sim y$ ) )

パレート最適は民主主義 democracy の条件である。

## 5. 無関係対象からの独立性 independence of infeasible alternatives

いくつかの選択肢を抜いても選択肢の選好順位は変わらない。

$p, q, x, y$  から  $A$  が選好順位を決めるとする。

$A : x > p > y > q$     限定しても  $x > y$

限定されて除かれた対象を無関係対象と呼ぶ。

ものごとは分析的に考えられ全体を後から組み立てることができる。

無関係対象からの独立性は分析的理性の条件である。

## 6. 非独裁性 non-dictatorship

集団を構成するどの個人の選択も他人の選択より優先されてはならない。全ての選択は等しく効力を持つ(平等的観念)。

パレート最適とは異なるが、非独裁性は民主主義の条件である。

#### (4)一般可能性定理

この6つの条件がすべて維持されなくてはならないならば、投票者のパラドックスを解くことはできない。このことを計算によって証明するから一般可能性定理と呼ぶ。結局どのようなやり方をとっても、この6つの条件が同時に満たされることはないという状態が存在する。

##### 1.投票者のパラドックスの場合

パレート最適以外満足している。しかし、どの選択肢を選んでもパレート最適を満たすことはない。たとえば投票者のパラドックス状態において、選択肢xに決定した決定したところ、B、Cが不満を生ずることになる。このときパレート最適を満たしていない。ところが、仮に集団の決定を出すために半ば強制的・反自律的にCに選択肢の変更を迫れば非独裁性に反することになり、投票者のパラドックスは解消されていない。

##### 2.その他の集合的選択もパレート最適に反する。

cf.アローは1972年ノーベル経済学賞を受賞した。投票者のパラドックスについてはいろんな解決策が以降考えられているが、結局アローの6条件のうちのどれかを外す、または弱めるという方法をとっている。これ以上深入りすれば公共経済学の分野になるので、このへんでアローの説明は終わり。

#### (5)投票者のパラドックス Voter ' s Paradox のおきた実例

1955年、アメリカ合衆国上院

多数党は民主党

民主党は南北戦争で負けた南部が作り、大都会の新移民を取りこんで支持勢力を形成した。その結果、進歩派の北部派と保守派の南部派が対立する。その対立の中で、南部のジョンソン L. B. Johnson が上院の議事総務を牛耳った。ちなみにジョンソンは後の第36代大統領（ケネディ暗殺後に副大統領から昇格）

少数党は共和党

民主党北部派、南部派、共和党はそれぞれ議会議員の三分之一を占めていた。

国道 Interstate 建設法案(Interstate...現在の freeway 網の一部)

当時南部は北部や西部より相対的に発展が遅れており、戦後も旧態依然の貧困地帯であって、北部との経済格差にあえぎ、また人種差別が平然と行われていた。国道建設法案は、戦後復興の観点から、また北部や西部より遅れた南部に物資の流通基盤を整え発展の基礎を作ろうという意図から、建設通じて南部に雇用機会を創出し、お金を落としてもらえる南部にとって必要なものであった。

北部の進歩的（急進的）議員がデービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句（労働者の賃金は地域的な労働事情によってではなく、一律に連邦政府が決める。）を取り決めた。

南部では労働者の賃金が北部と比べて相対的に高くなる。遅れた南部の低所得者層に金を与え、南部の経済発展を狙うのが目的であった。

一見このデービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句は、南部にとっては低所得者層の開発につながり、好都合のように思えるが、実際はそうではない。南部の民主党支持者は基本的に事業者であるから、デービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句によって労働者賃金が上がることは、望ましくなかったのだ。進歩派議員がこの挿入句を主張している点に注目すること。

ここで、法律制定化をめぐり、次の3つの選択肢、すなわち、

G 案...国道建設法原案 + デービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句

S 案...国道建設法原案（デービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句なし）

H 案...国道建設法廃案

が並立することになった。各勢力にとって好ましいのは以下の通りである。

民主党南部（保守派）S>H>G

南部としては当然道路がほしい。しかしデービス・ベーコン挿入句で南部の労働者の賃金が上がることは事業者にとって好ましくないで、この順になる。

民主党北部（進歩派）  $G > S > H$

南部には北部との格差是正のために道路が必要である。同時にデービス・ベーコン挿入句も南部の労働者の賃金上がるために経済的観点から適用することが望ましい。

共和党  $H > G > S$

北部の利益を代弁する共和党にとって南部の道路建設は率先してやるべきではないが、仮に南部に道路建設を行う場合は、デービス・ベーコン挿入句が適用された方が、南部の労働者の待遇が改善されてよいと考えるので、こうした順序になる。

以上は、前述の通り各勢力がほぼ同じ人数であるから、実際に投票者のパラドックス Voters' Paradoxが成立している。

ここで上院を牛耳っていた辣腕のジョンソン院内総務は、どのようにして自らの立場である民主党保守派の立場、すなわち S 案 国道建設法原案（デービス・ベーコン Davis-Beacon 挿入句なし）を適用させようとしたか？

各案を支持する議員は前述の通り 3 分の 1 ずつであることに注意する。

彼の手法は 2 つずつに選択肢を限定していくものだった。

まず、

(case 1)

G or S / H という議題をかけた

S / H に民主党南部（保守派）と共和党が向かうため、民主党（北部）の支持する G は消えた

次に S or H という議題をかけた

S の方に民主党南部（保守派）と民主党北部（進歩派）が向かうから、共和党の支持する H が消えた

すなわち、結果的にジョンソンの派閥の民主党保守派の案である S 案が通った。

ジョンソンは自らの意を通すために意図的に議員を誘導したのである。

これは以下のように別の手法を用いれば、どちみち G, H, S のどの選択肢も最終的に残ることがわかるだろう。

例えば、

(case 2)

H or G / S という議題をかけた

G / S に民主党北部（進歩派）と民主党南部（保守派）が向かうため、共和党の H は消えた

次に G or S という議題をかけた

G の方に民主党北部（進歩派）と共和党が向かうから、民主党南部（保守派）の支持

するSが消えた

結論として、民主党北部（進歩派）の意向に沿った法案形成、すなわちG案が可能になる。

さらには、

(case3)

S or G / Hという議題をかけた

G / Hに民主党北部（進歩派）共和党とが向かうため、民主党南部（保守派）のSは消えた

次にG or Hという議題をかけた

Hの方に民主党南部（保守派）と共和党が向かうから、民主党北部（進歩派）の支持するGが消えた

結論として、共和党の意向に沿った法案形成、すなわちH案が可能になる。

このように、投票者のパラドックスがある場合、多数決の取り方次第で結果が変わる。

それを、経路依存性 path dependencyと呼ぶ（経路依然性でもよい）。

以上、パラドックス成立下でも決定が行えたので、アローが言うような六つの条件をどれか弱めると決定ができる場合もある（たとえ恣意的であっても）。

### 3 1 4 : 集合財の理論 collective goods

[ 参考 ] M.オルソン M. Olson 「集合行為論」( ミネルバ書房、1983 年 )

#### (1) 集合財 collective goods 個人財 personal goods

財...人の欲望を満足させるモノ、売ったり買ったりするために作りだす特殊なモノ。

（註：モノは「もの」に限定せず、「サービス」なども含めるため、カタカナで表記する。）

オルソン Olson 曰く、財には個人財と集合財がある。

個人財...誰かが使っている限り他の人は同時に使用できない財。つまり、ある個人が消費していれば集団のほかの人は消費できない財。このことから、誰かある1人が消費してしまうと、他の人は使用できないモノ(e.g.シャープペンシル、ノート、缶入りコーラ...他の人が同じモノを飲むことはできない)。世の中、たいていのモノは個人財である。

集合財...公共財 public goods、共通財 common goodsと呼ぶ人もいる。財の中でも特別なモノ。誰かが使っていたとしても他の人は同時に使用できる財。あ

る個人が消費したときに集団の他の人も消費できる財。これは換言すれば、即ち、集団の中で他の人が消費することを拒否できない財（e.g. 環境、景色、電車、道路、ただし私道は除く）。

## (2)集合財と個人の選択

集団が大規模で、かつ個人はひとりひとり合理的な選択をするという前提条件のもとでは、その集団は集合財を選択せず、集合財を決して手に入れることができない。オルソン Olson は数理経済学者出身で、議論を数式で進めているため、例によって例の如く、授業では要点のみを述べていく。

1. 大規模集団であるため、個人の犠牲 cost の効果は大して期待できない。というのは、個人が犠牲を払っても、たいした効果は得られないため、個人が行動を起こさないからである。そして大規模な集団なので、相互監視などは行なわれない。（e.g.1,東京電力の電力不足...個人が犠牲を払っても、関東圏全体の電力消費と比べれば微々たるものであるので、合理的個人であれば犠牲を払おうとしない。）（e.g.2,低公害自動車...自分一人が低公害の自動車を買うとしても他の人は買うと言うことが保証されておらず、集合財であるきれいな空気は手に入らないから、合理的な個人であれば犠牲を払おうとしない。cf.小規模な集団であれば個人の行動がつかめし、その結果きれいな空気が手に入る可能性もある。）

**逆に、この種の論理は、個人がどれだけ浪費しても（犠牲を払わなくても）集合財は手に入ることを意味する。**

2. 大規模集団の中では、個人の行動はあまり目立たない（e.g.自分だけのうのうとクーラーをつけていても、どこの家のクーラーかわからない。クーラーよりも自動車騒音の方が大きいって場合もある）。

どのように行動してもあまり目立たないということは、どんな犠牲を払おうが（電気を止めて節電に頑張ろうが）称賛されない。個人の犠牲がなくとも、他人の行動次第で集合財は手に入る。他の人の犠牲で集合財が手に入れても、私は非難されない。他の人が苦勞しても、自分はのうのうとしていられる。犠牲を払わず集合財を手に入れた人のことを、フリーライダー free rider といい、フリーライダーは、犠牲を払った人よりも得である。

### 3. 合理的個人からなる集団である

大気母集団の中で、合理的個人の選択は、  
「犠牲を払わずに集合財を手に入れる」

> 「犠牲を払って集合財を手に入れる」

= 「犠牲を払わない、集合財も手に入らない」

> 「犠牲を払って集合財は手に入らない」となる。

誰もが誰か他の人に犠牲を払ってもらおうとするため、自分では犠牲を払わずに集合財を手に入れようとするフリーライダー-free rider、もしくは薩摩守平忠度（さつまのかみただのり...旧武士階級の人。現代人が電車などに「ただ乗り」している現実を、さつまのかみただのりを用いて表現した洒落）になろうとする。ただし全ての人が誰かに犠牲を払ってもらって自分に還元しようとしている場合、個人が合理的人間であれば、結局集合財は手に入らない。（e.g.井の頭線...みんながキセルすれば、井の頭線はつぶれてしまう）

註：フリーライダー-free rider...前述の通り、他の人の犠牲によって自分が集合財の恩恵を得る。一般的に、自分は何もしなくていいので、得である。ただし全ての人がなることはできない。

註：cost の訳語として、ここでは犠牲を用いた。費用の方がより適当であると思われる方は、適宜脳内で解釈し直してください。

とはいえ、集合財は必要であるから、国家などの行政が主体的に関わるケースも多い。環境浄化や、公園整備はその例である。

#### (3)処方箋

上記のような事態を迎え、皆が自由主義的立場をとったとき、政府等の公共的存在抜きにしたときのオルソン Olson の解決法

#### 独裁性 dictatorship

個人のうちの誰かから独裁者が出て来て、集合財を選択するように強制する。

彼の役割は選択を他人に強制するということである。

しかし、人から命令されるということで、大きな犠牲が払われる。

さらなる問題は、彼によって本当に集合財（公共財）が提供されるかどうかがアヤシイ点である。個人財の追求に走る可能性がある。

### 政治的企業家 political entrepreneur

自分個人の合理性・合理的な損得を越えたところで、人々に集合財を手に入れるように（各人の犠牲の提供も含めて）訴える人。

集合財は絶対に社会の中で提供されない（とオルソンの理論ではされている）から、合理的選択論（オルソン Olson やアロー Arrow による経済学の古典的方法論）を掲げ、人々を誘導することができる人。

企業家は、資金を持つ資本家と、技術やアイデアを持つ人を結びつける。

政治的企業家も人々の選択を取り持つのである。

註1：entrepreneur...フランス語起源。本来的な意味は「間を取り持つ人」で、これを「企業家」と訳す。19世紀頃よく使われた言葉。enter = inter, preneur < prendre = have の意味ですね。フランス語クラスの私ですが、未だフランス語ははじめませんねえ（どうでもいいことですが...）

註2：政治的リーダーというものもよくこのような政治的企業家の役割を担う。  
つまり政治的企業家の仕事は政治的リーダーの部分集合である。

### 315：特徴と批判

#### (1)精密な形式的議論である

前提条件を決め、数式で展開している。出てくる結論は逆説的で面白く、知っていて損はない。とはいえ、集合財が絶対に選択されないとするのは、いささか疑問である。

精密な形式的議論であるがゆえに現実離れしているため、我々が現実の問題を解決するのには向いていない。

#### (2)合理的人間観

ロックの人間観などと比較して、アローやオルソンの合理的人間観は通底こそすれど範囲がいかにも狭い。人間は、必ずしも常に interest のみに執着するわけではない。彼らの考える合理的人間とは幅の狭い合理性終始しており、例えばアメリカのネオコンが指す（例えば中東の人への）人間観のような、単純な考え方であって、「合理的人間観」の妥当性に疑問が持たれる。

#### (3)（方法論的な）個人主義・個別主義 individualism

個人主義・個別主義 Individualism...バラバラの個人が勝手に選択する。しかしバラバラな人々の考え方等を集めたところで、何かしらのことが言える保証はない。  
対立概念： 原子論 atomism 全体論 wholism

- **原子論 atomism** (a=「否定」の意味の接頭辞、tom=「分割」)  
 ...これ以上分割ができない最小単位 atom を考え方の基軸に置く。  
 物事(社会)を全て要素(個人)に戻し、要素(個人)から考える。  
 アローやオルソンの立場は、個人主義だから atomism である。
- **全体論 wholism** (授業では先生は holism と書いてらっしゃいましたが、多分(そしておそらく絶対) wholism < whole の間違いでしょう。穴 hole じゃ僕には分かりかねます...)  
 ...まず全体を考え、部分は全体の中でどのように役立っているのかを捉える。  
 社会をまず考えた後に、その構成員である個人の役割を考える。

問題点：アローやオルソンのように、社会について個人主義で考える(原子論的立場)というのは、個人の自由を尊重しようと言う自由主義 liberalism であり、自由主義的民主主義 liberal democracy の立場を守ろうとしている。これは長所である。しかし、個人と個人の関係により個人は変化するが、バラバラな個人間に生まれてくる一種の仲間意識や連帯感を説明できない。オルソンの理論では集団の力学が説明できておらず、社会学的な集団を考えていないのが短所である(e.g.個人としての阪神ファンすべてを集めて集団を形成しても、昨今の盛り上がりは説明不可能)。

### 3 2 0 : 集団理論 group theory - A.F.Bentley&D.B.Truman

#### (1)起源

1970 年代に起源を持つアメリカ的な理論である。

元来、政治学は欧州で発達してきたが、欧州は貴族・労働者などに帰属する身分性社会であり、今日そうした体裁上の身分がなくなっても、貧富の差などの階級の差などは依然残っている。マルクスも、階級の理論を考えているように、ヨーロッパでは階級がはっきりしていた。

それに対して、当時のアメリカ社会は流動的であり、少なくともイメージとしては、アメリカは未だ定義づけるにははっきりとせず、きっちりと固まっていた動かしがたい欧州世界とは異なっていた。アメリカンドリームに象徴されるように、可能性がどの構成員にもある社会であった。また、アメリカは国の規模が大きいため地域・集団などに関して多元的でもあった(e.g.イギリスの中心がロンドン、フランスの中心がパリなのに対し、アメリカにはそれらに相当匹敵する都市がない。政治の中心はワシ

トン D.C.であり、経済の中心はニューヨークであり、石油産業の中心はテキサス州ヒューストンであり、自動車産業の中心はデトロイトである。社会の構成員についても様々な人種と出身国の異なる人々が共存するため、構成される集団も必然的に多様である。こうした新しいモデル形成を求めて、アメリカの社会でどのような集団的決定が行われるのかに興味が集まり、これを考えたのが集団理論である。

## (2) 集団理論と集団の形成

社会の中の様々な利益集団は個人の利益関心に従って形成される。

$G = f(Ir)$

ただし、

G: Group

Ir: Interest

の意である。これが意味するところは、

「人々は合理的な利益関心に従って動き、集団を形成する」ということ(e.g. 圧力集団)。

逆に、この集団は利益関心によって集まっているため、集団の利益関心は何かを推測することも出来る。

## 3 2 1 : 集団理論とは何か

### (1) 説明

ある社会や経済と政治がどのように結びついているか。経済とか社会が政治にどのように影響し、政治は経済・社会(年齢、職業、ジェンダーetc.)にどのような影響を及ぼすか。

社会・経済   政治

以上の関係は相互的である。

ここまでの議論はマルクス主義と同じである。次にマルクス主義と異なる点を説明する。

### (2) 注目点

マルクスは階級・生産手段に注目した。

集団理論は利益集団 interest group に注目する。

利益集団 interest group

#### 1. 定義

- それぞれの社会にそれぞれの経済・社会的な状況が存在する(e.g. 今日の日本... 少

なくともデフレーション、経済は先が見えない、株価は改善の傾向は間々見えるものの未だに低迷、北朝鮮による拉致問題...etc..)。こうした状況に関連して、特定の政策が求められる。

経済的・社会的な状況...特定の政策（ 集団がこうした政策を求める。

**だからこの集団は「状況の改善」という同一の利益関心 interest を持つ。**）

- 集団はその支持する政策（利益関心）を推進するために活動する（デモンストレーション、コマーシャルなど）。集団の活動があつてこそ利益関心を具現化できる（e.g. 拉致問題では、彼ら拉致被害者家族が騒がなければ、事件として認識されることはなかった）。
- 人々はそれぞれの利益関心に従って特定の政策を支持する（e.g. 経済的・社会的変革など。拉致問題なら、日本政府に対して、北朝鮮に圧力を掛けて欲しい、アメリカや中国の協力を引き出して欲しいと拉致被害者家族が懇願し、実現の暁にはそれを支持する）。

## 2. 集団は永続的ではない

- 景気が良くなれば、経済的逼迫の改善という集団の利益関心、運動がなくなってしまう。
- 北朝鮮が拉致被害者を速やかに帰せば、集団の利益関心、活動がなくなってしまう。拉致被害者の会は解散する。

集団は、経済的・社会的な状況・争点に従って行動する。マルクスの固定的な階級理論と違って、集団は状況や争点によって変わる流動的なものである。

## 3. 圧力集団 pressure group

- 圧力集団も特定の利益関心を持つ。先ほどまでの集団（＝利益集団 interest group。利益集団は、社会での政治的決定を解明するための、ダイナミックではあるが理論的な集団という色彩が強い。）と異なっているところは、**圧力集団は、永続的で、ある程度組織・制度づいた集団である。**
- （圧力集団に対する）利益集団は、何か問題があると同一の interest を持つ普通の人々が集まってきて集団をつくり、デモなどの visible な活動を行う。そして、問題が変わればまた別の集団形成が行われるというある意味で、利益集団はアメリカ社会が理想とする民主主義の形に合致しており、概念的・理想的存在であるとされる（**あくまで利益集団の話。圧力集団ではない。**）

- 政治に働きかけること lobbying もしばしばである (cf. 議員達に働きかける集団 lobbyist )
- 実際問題として、消費者団体なども圧力集団の一つであるが、むしろ大々的に取り上げられるのは lobbyist の方である (e.g. General Motors の影響下にあるオハイオ州での日本車排斥を議員に訴える lobbyist 達 )

### (3) interest の測定

#### 1. 注目する点 (固定する点)

- 争点 issue が決まっていなければならない。 争点ごとに interest を測定する (e.g. 北朝鮮問題について。イラクに自衛隊を送るか否かについて。etc. )
- この争点に関連して、特定の利益関心 interest によって結びつく能動的参加者を集める (e.g. イラクに自衛隊を派遣するのを主張する人、反対して国会に押しかける人、etc. 能動的参加と見られるには、他の人にもはっきりと分かる行動を行うことが重要であって、さもなければ無関心と判断される )
- 続いてその争点に対して抱く政策ごとに分かれて利益集団をつくる。争点が別になると集団も変わる (e.g. 北朝鮮に対する態度と、日本の政治に対する態度は、争点が異なる為に自ずから利益関心も異なる。ひいては利益集団も同一のものではなくなる )

#### 2. 測定

$I = \text{特定の政策を求める人の総数} / \text{観察可能な能動的参加者の総数}$

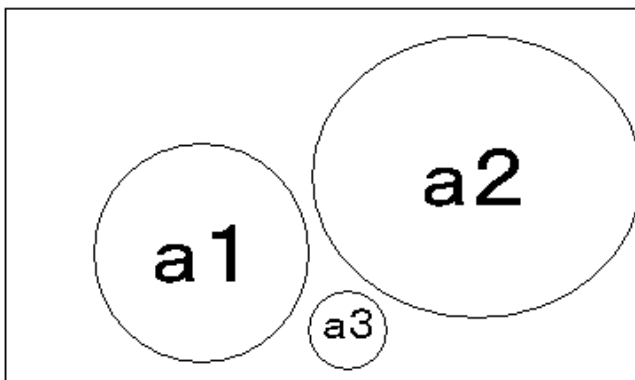
ただし  $I$  : 利益関心の利益の大きさ

を意味する。

それぞれの利益集団の利益の大きさは、上記の式により数値化される。例えば、

↓ 争点 (a という争点がこのここではあるとする)

a



前ページのような争点と、そのうちに存在する3つの相異なる利益集団がいるとする。利益の大きさは面積の広さで表現することにする（きたないピットマップですが修正する気にもなりません。ご了承を）

ここでa1の利益関心の利益の大きさを表現することにしたい。

$I_{a1}$ と表すことにして、

$$I_{a1} = a1 / a1 + a2 + a3$$

と表現される。同様に、 $I_{a2}$  や  $I_{a3}$  も、

$$I_{a2} = a2 / a1 + a2 + a3$$

$$I_{a3} = a3 / a1 + a2 + a3$$

と表現される。

- 対象は、あくまで「観察可能な」能動的参加者に限定される。心の中で思っているだけだったり、トイレの中でつぶやいたりするだけではダメ。外に出て公然と言うのはOK。このように利益関心を客観的に定義することを客観的利益アプローチと言う（cf. 客観的利益アプローチに対置するのが主観的利益アプローチ）。
- 但しすべての、特に最近の集団理論がこのように客観的利益関心に限定して考えているわけではない。

以下、再び学者の理論に戻ります。

### 3 2 2 : A. F. Bentley の理論 the Process of Government(1908)

政治学至上画期的な初めての集団理論とされる。残念ながら邦訳版はない。原著もかなりレアであるので、見つけたら先生に教えてあげるともなく「優」がついてきます。

#### (1) G = A = I

G : Group

A : Activity

I : Interest

の意ですね。

### 「集団とは活動であり、活動とは利益である。」

集団 group : 特定の目標を実現するために活動する個人の集まり (e.g. 原発つくらない、ダムつくらない、etc. )。ベントレーによれば教室で勉強している人たちは集団ではない。趣味サークルやイベントサークルであっても活動であるが、ベントリーは集団として捉えていない。対してダム建設反対の為に集まった人たちは、集団としている。ベントリーの言う活動というのは、目標を実現するための活動であって、利益 interest を求める。利益集団はダイナミックである。「集団は常に活動する」という考えが、ベントリーの議論においては顕著に表れる。

活動 activity : 特定の目標実現のために、自分たちの利益関心 interest を求める活動である。

#### まとめ

Group 特定の目標を満たすため活動している = Activity 活動

Group 集団の目標は参加する個人の利益関心 interest からなる = interest 利益関心

Activity 活動は利益関心 interest を実現するためのものである = interest 利益関心

#### (2) 注目すべき点

##### 1. 政治過程 political process と捉える

proceed 進む、動く、進行する、...

政治というのは段階を踏んで動いていくものであって、1908年の段階では斬新な捉え方である(ウッドローウィルソンが第一次世界大戦後に言ったのが他では珍しい程度である)。こうしたこともあってベントレーは政治過程論の起源の一人であるとされている。階級の利害対立は普遍であり階級は固定的だが、集団理論では状況によって集団が変化する。そのためこの理論は政治の流れ、政治の進行状況、政治の過程 process を考えているダイナミックな理論であるといえる。

##### 2. 「特定の利益」に注目している

- 政治分析の単位の問題を扱っている (e.g. 身近なもので単位の問題を例に取ると、イクラの粒なら何粒、しかしトピコなら何gといったように、対象に応じて単位を替えるのが筋である。これを政治分析においても適用した)。以下のマルクス主義を参照。
- 具体的なものであるから細部に関しても分析できるという長所がある。
- マルクス主義...階級が単位。

町工場での経営者と労働者の間の利害対立...階級闘争は必然であるとする(寅さん

の世界のように、経営者と労働者が和氣藹々<sup>あいあい</sup>としているのならば、彼らが盲目なだけである)。

- ただしマルクス主義者は抽象的に労働者の利益のことを言っているに過ぎない。ベントレーのように特定の利益に注目すると具体的であって、問題を立てることが容易になる。これはそれ以前の政治分析になかった新しい点である。

### (3) 評価

二十世紀初頭という時期にしては現実の政治に注目した新しいものであった。しかし、当時の社会には新しすぎて受け入れられなかった。「民主主義とはなんぞや」とやっている時代に到底無理な論理であったと言える。そのためベントレーは山中に隠居する道を選び政治学を止め、哲学の本ばかり書くようになる。トゥルーマンが40年後にベントレーの本を再発見するが、そのときあった政治学の本はこの理論に関するものの一本だけであったと言われる。

### 3 2 3 : David B. Truman

David Truman, The Governmental Process(1951,1971 序文が2つ付いて改訂)

アメリカ政治に関して、ベントレーが考えた理論に基本的に賛成する。アメリカでは個人よりも集団の方が権限を持っており、アメリカは自由で、個人的裁量が許され、かつアメリカンドリームのある社会を保有する。対してヨーロッパは、個性的なエリートがおとなしい大衆を引っ張ることが多く、集団的であるとは言えない(e.g. チャールズ、ヒトラー、ド=ゴール、スターリン)。アメリカは、個人が集団をつくって自分たちの理論を投影しつつ、社会への参加を企図する。

#### (1) 利益集団

- a. ある一定の状況があったときにそれに基いた目標が決められる。
- b. 他の集団や政府に対して要求・主張を行う(e.g. 自衛隊イラク派遣反対の為に防衛庁・首相官邸に訴える。ダム反対に国土交通省を訴える)。

**共通の態度 attitude を持つ集団を利益集団という。**

(attitude...心の向き。感情的なものではなく、知的な心の方向性。例えば異常気象のときは、暑い寒いではなく、地球的な環境面から考察したりする心の方向性のこと。)

**この要求や主張によって客観的に「観察可能」になる。**

- ベントレーと比較すると、ベントレーのようなダイナミックな理論ではなく、静的な理論である。

- ベントレーより幅広い定義であり、ベントレーが言うような政治的活動を必要としないその理由は、政治過程についての考えがベントレーとは異なるからである。

## (2)政治過程

### S D P

ただし、

S: : Stability 安定

D : Disruption 混乱

P : Protest 抗議

の意味。

安定が混乱に変わり、混乱が抗議に変わる。イコール関係でないことに注意。

1. 我々の社会は制度化された(人々の行動が定型化されている)集団から成り立っている。その社会のうちには、制度化された・決まった行動様式や組織がある(e.g. 軍隊上下関係、ビジネス、大学試験要項、近所づきあい、国際関係、...)。そのため我々の社会は逸脱した行動がなく、安定しており、均衡 equilibrium 状態が作り出される。

### 2. 混乱

ところが状況が一変すると均衡状態が崩れ、社会は混乱に陥る(e.g. 年金が考えていた額ほど来ない! 半分になる! 状況不安)。また安定が覆<sup>くつがえ</sup>される(e.g. 幕末の動乱 明治維新)。

とはいえ、トルーマンの考えでは、社会の基本は安定なので、混乱は長続きしない。

社会の安定と均衡の回復をもたらそうとする共通の要求をもった新しい利益集団が作られる。(e.g. 年金削減を願い、自分たちの考えを表明する団体。明治維新期の不平士族なども一例)

この時点で近郊が回復しないと、以下のように「抗議」する。

### 3. 抗議

(ここで初めて政治的にからむ)

要求が達成されなければ利益集団は政府などに直接抗議を行い、トルーマンの言うところの政治的利益集団となる。

抗議が受け入れられて、新しい安定と均衡が作りだされる。

## (3)比較 Bentley と Truman の理論

### 1. トルーマンの言う政治的利益集団の特徴は何か

## 政治的利益集団 (Truman) と利益集団 (Bentley)

共通点...ある特定の状況に対して共通な明確な政策目標をもつ。

相違点...ベントレーの利益集団は政治的なものしか考えておらず、**集団は、みな政治的なものであるとする。**対して、トルーマンはすべての利益集団が政治に関与するとは考えていない。S D P の S、および D において形成される集団は政治的な集団ではなく、P において初めて政治的に関与する集団が形成される。そのため利益集団のなかには混乱が小さいため利益集団のままで安定が戻り、政治的利益集団にならないものもある。**政治的利益集団は圧力集団に相当すると見てよい。**

### 集団そのものについての考え方が違う

トルーマンの利益集団...制度化された行動を持っている。おとなしいイメージ。もちろんトルーマンも政治的利益集団のみならず利益集団の考えを別個に持っているので、気をつけられたし。

ベントレーの利益集団...ダイナミック。集団とはつねに政治的に活動している人々を指す。

註) 現在の政治学では Truman の政治的利益集団を圧力団体ないしは圧力集団という。

但し厳密に一緒であるわけではなく、圧力集団は組織・資金があり政治に働きかけるものである。

## 2. 政治的利益集団

### なぜトルーマンは単なる利益集団と政治的利益集団とを区別したのか

人間の中にはさまざまな目標があり、ベントレーは汎政治主義の立場を取り、すべてのことに政治は引っ付いてくると考えた(政治の非独立性)。一方のトルーマンは、政治は独立した領域にあって、**政治は目標を実現する為の単なる一つ的手段**であると考えていた。だから必ずしも政治という手段をとらなくてもいいと考えていた(e.g. トルーマンは目標実現において、愛を勝ち取る、社会的榮譽を得る、自由にのびのびとする等の行為も重要だとした。これらは政治とは基本的には関係ない。とはいえ、この中から政治的な萌芽が生まれる可能性もある。平和で自由な暮らしをしたいという欲求が、戦争反対の声を引き起こすのはその一例である)。またこのように、政治は手段に過ぎないから、逆説的に政治と言うものは他の分野とは独立しているということも言える(政治の独立性)。

## 3. 政治過程

ベントレー...政治過程は常に動いている。

トルーマン...政治は安定が基本であり、時折起こる混乱がもたらされたときに政治過

程は変化する。1951年に形成された理論であって、アメリカ覇権の安定を重視したものであると考えられる。

政治過程とはダイナミックなものが基本であるから、トルーマンの理論は政治過程論の本質から離れてしまっているとも考えることもできる。

### 3 2 4 : トルーマン以後の集団理論

#### (1) 混乱 D から抗議 P への移行

トルーマンは、まず混乱が起きると、利益集団が形成され、それで解決しなければ利益集団は政治的利益集団となり抗議などの実力行使へ移るとしたが、意向の定義が曖昧であった。そこでトルーマン以後、費用・効用論( cost と benefit を比較して benefit が大きければ行動する ) を用いた 2 つの考え方が生まれた。

##### 1 . 組織費用 organizational cost

組織を作るためのコストが大きすぎると人々は組織に参加しない( e.g. サラリーマンの医療費増 抗議のための組織形成 組織費用が必要になる 費用 cost が大きすぎると、政治的利益集団は形成されず、現状の不利益を受けた方がまだ得となるから、問題は素通りされてしまう )。

##### 2 . 抑圧費用 repressive cost

自らの立場・地位に対して予想される抑圧・制裁( e.g. 下っ端官僚のデモ参加 上司に呼びつけられる。これは自らに対しての抑圧・制裁。他にも、専制政府などで政府に反対すると投獄される場合など )。抑圧の方が大き過ぎるならば、現状の不利益を受けた方がまだ得であるから、問題は素通りされてしまう。

( 混乱に伴う損失 loss )      ( 組織費用 OC ) + ( 抑圧費用 RC )  
ならば、混乱から抗議へは移行しない。

#### (2) 新しい政治過程の発見

##### S 安定 P 抗議 Social Transformation 社会変革

その過程が発見されるための好実例があった。

1955 年アメリカ南部アラバマ州都モントゴメリー-Montgomery

市営バスボイコット事件：

南部ではアフリカ系市民への差別、人種隔離政策が日常的にあった。例えば当時「市

営」のものは、有色人種と白人の席が隔離されていた。市営バスにおいては、バスが空いているときは良いが、混んできたら白は白人用・黒は黒人用の席に座ることが慣例となっていた。しかし、あるとき黒人女性がバスが混んでいるのに白人用の席に座りつづけ、警官がやってきて逮捕されてしまった（南部でも逮捕事件になることは非常にまれであった）。

その事件に抗議するために南部の黒人集団は市営バスをボイコットした。（Montgomery バスボイコット事件、指導者は後に公民権運動の指導者になる M.L.キング Martin Luther King である（彼自身は 60 年代に暗殺されるが））。

さてこの過程で混乱は存在しなかった。しかし、既得的に挫折の区別は以前から存在していたわけで安定しており、混乱は生じなかった。逮捕したのは法律に従ったまでに過ぎない。混乱抜きで大規模な抗議行動が発生した。すなわちこれはトルーマンの理論であるところの、S D P が適用されないわけである。

安定はトルーマンの考えるような幸せなものではなく、不満を鬱積させた安定であったため、抗議をきっかけとして社会変革が起きた。逮捕は抗議ならびに社会変革を引き起こすための引き金 trigger に過ぎなかった。

ちなみに人種差別政策が改善されるのは 60 年代末となる。

### (3)主観的利益アプローチ

安定の中の不満はおおっぴらにはされないため、客観的利益アプローチではカバーできなくなった。客観的のみだと客観的な利益関心 interest がないのに抗議が出てきたという事態を説明できなくなる。客観的アプローチでは安定 S 抗議 P が説明できない。そのため心の中で考えているような、主観的なものでも利益関心があるということにした。

**主観的利益アプローチ：心の中で考えている利益関心 Interest も考慮に入れる**

**客観的利益アプローチ：顕在化する Interest のみを考慮に入れる**

### 325:まとめ

不甲斐ないですが Word じゃうまく樹形図書けなかったのでここは各々の流れの紹介で  
ご勘弁。ノート持っている人はそれを使ってくださいな。

- S      D      P (Truman の理論。P の後、S の状態に再び戻る)
- S      D      acquisense 沈黙 (P しない場合)
- S                  P      Social Transportation 社会変革 (D しない。さらに ST  
後には新たに形成される S に移る)
- S                  acquisense 沈黙 (D しない。その後の P もしない。何も行動を起  
こさない)

### 326:集団理論の特徴と批判

#### (1)安定状態

トルーマンの政治過程の出発点は安定であり、最終点も安定であるという均衡理論で  
ある (Social Transportation でさえ以前の状態とは異なる新しい安定状態と見るこ  
とができる)。しかし現実の社会は安定せず、流動的といったほうがそぐう。

cf.階級闘争...マルクス主義では、支配者層と被支配者層は常にダイナミックに格闘し、  
その格闘は永遠に続く。(対して集合理論は非常に安定的。安定的なのは短期的な事象  
の取り扱いをしているからである。これは、映画の一コマ一コマのように、2, 3 の  
ネガさえ見ればあまり絵は変わっていないが、15 分とかの長時間になれば、絵は動い  
ているように見えるのと同様である。長期的なものを探ると、ダイナミックな展開を  
得ることができる。

基本的にトルーマンの想定した社会は五十年代の古き良きアメリカ社会であり、現在  
とはずいぶんかけ離れたものになっている。

#### (2)合理的人間

(混乱に伴う損失 loss)      (組織費用 OC) + (抑圧費用 RC)

のとき、人々は抗議を起こさないとの考えにトルーマンは終始しているが、一概にそ  
うとは言えない (e.g. フランス革命のとき、バスティーユの人たちは抑圧費用 RC の  
ことを考えて行動してはいない)。トルーマンは個人は合理的な考え方をするとする、  
合理的人間のみしか考えていなかったが、損得を超えた判断を人々は行い得る。

#### (3) (政治的) 利益集団の形成の問題

争点ごとに集団は組み変わるというのがこれら利益集団の理論であったが、これは良くも  
悪くもアメリカンデモクラシーの投影であり、現実では全く異なる。例えば、アメリカで

政治学を習った学者がラテンアメリカに行つての学習成果を適用しようとしたとき、個人主義の上に立つ集団理論は現実に全く適合しなかったのだ。

これは 1960～1970 年代における、軍部独裁下のラテンアメリカでは軍隊、教会といった単位が個人よりも重要であったためである。ラテンアメリカの事例では、「自由な市民」は存在せず、(一種の) 団体主義 corporatism の考え方を必要とした。

またこのことはヨーロッパ(特に北欧で顕著)にも同じで政党組織、教会、労働組合という団体単位で人は行動し、団体が政治を決定する力を持っている。(neo- corporatism) (e.g. 1960-70 年代のオランダ...一つの社会は複数の柱 zuilen によって組織される。右派のキリスト教民主主義党には労働組合と自由主義グループが傘下に、左派の社会民主主義党にも、別の労働組合などが傘下に存在する。現在は zuilen はほとんど解体され、今日 neo-corporatism が隆盛なのはベルギーや北ヨーロッパ。ちなみに zuilen は、柱 zuil の複数形。)

neo がつくのはヨーロッパ中世に corporatism が発達したため (e.g. ギルド)。

#### 400：政治社会の理論

(もちろん内容ありません。)

#### 401：考え方の歴史(註：「301：考え方の歴史」と内容が酷似しているので参考にしてください)

##### (1)ギリシャ・ローマ時代

ポリス polis, 共和国 res publica (よりよい政治社会をつくろうとする風潮は勿論当時から存在していた。)

##### (2) 中世

キリスト教共同体 Civitas Dei,

封建制...有機体的(国王・貴族=花、土地に縛り付けられた農民=根...「301：考え方の歴史」参照)

##### (3)近代

絶対主義の理論...国王に主権があり、貴族の特権を否認。ボータン J. Bodin などが代表。

近代政治原理・イデオロギー...ホブズ、ロック、ルソーなどが代表

ロック...議会在主権をもてばよい。

ルソー...人民全体として主権をもてばよい（一般意志 *volonté générale*）

個人...自由かつ平等かつ合理的

ホッブズやロック、ルソーに共通した考えとしては個人×政治機構=良い政治（材料×レシピ=おいしい料理、の論理と同等）

一人一人の人間は合理的であるから、政治機構において個人の組み合わせさえ良ければ良い政治ができる。

ただしホッブズにしるルソーにしる、材料が腐っていること、すなわち、個人が全く合理的な判断を行わないことの可能性については、触れることはできなかった（当時は各個人の民度が高く、そういった問題が顕著でなかっただけかもしれない）

## 402：マルクス主義による政治社会

### (1) 階級社会 *class society*

マルクス・エンゲルスの著作によれば、「歴史的にすべての社会は階級社会である。」  
階級社会...社会に階級が存在してある階級が他の階級を支配する社会。複数の種類の人間がいる社会。

（例外：原始共産制の時代では、階級がなく平等でみんなが生産に参加する良い社会であったと考えられている　時代が進むに連れ階級分化；暴力独占（e.g. 奴隷を使う人と奴隷として使われる人。国民と臣民。資本家とプロレタリアート　社会的・階級的相違）

### (2) 階級闘争 *class conflict*

マルクス曰く、「人類の歴史は階級闘争の歴史であり、支配されている階級が持っている特権を奪い取ろうとする闘争が常に繰り広げられている。」

階級闘争に勝利するとその立場は入れ替わるという、非常にダイナミックな論理である。マルクスは、闘争によって社会は成り立つとした。

### (3) 国家=暴力装置

階級社会において、国家は独特な意味をもつ。国家は支配統治するために暴力を使用することが認められている。階級闘争の行われている社会では、国家は支配階級の特権を守る暴力装置となる（暴力装置には軍隊・警察・裁判機構などが含まれる）。

ダイナミックと言えばダイナミック、マクロ的と言えばマクロ的な考え方である。

### (4) 階級闘争論における政治社会

$Sc = f(P, Cf)$

Sc: Society 社会

P: Power 権力

Cf: Conflict 闘争

この式が意味するところは、「社会の基盤は闘争 conflict であって、権力 power を巡る闘争によって社会 society は成り立つ」

4 1 0 : 政治システム論

4 2 0 : 構造 = 機能論

4 3 0 : 民主主義の科学的理論

4 4 0 : 民主主義の経済理論

4 5 0 : 政治体制の類型学

以上はすべて今回の授業ではやりません。いや～残念ですね（微苦笑、by 久米正雄）  
過去問や私の手元にある過去のシケプリに部分的ですがサンプルありますので、参考にされたい方は申し出てください。

5 0 0 : 講義を終わるにあたって

（内容ありません）

5 0 1 : 政治理論      なぜか？

1 . この授業は、政治学入門用講義としては変わっている。この講義では理論を扱い、バックグラウンドやその理論を作った人の思想を中心に扱ってきた。普通の政治学入門の講義では、国家、権力、政党、...などを扱う。とはいえ、この授業を通じて、そうした普通の授業が扱うテーマの半分以上には触れたつもり。

先生が大学一・二年の頃：アメリカの圧力集団論が日本に輸入されたが、現象の説明に終始している。圧力集団は、伝統的なイギリスの考え方からは政治に不穏当に関わってくるので良くないとされるが、しかしながら圧力集団はアメリカの理想の反映であった。当時出回った書物には、そうしたことがあまり書かれていなかった。

現象の知識を詰め込んでもあまり意味がない。切り取られた知識は古くなる（e.g. 新聞の切り抜き）      先生は、方法論的な考え方などを教えたかった。

高橋先生は相対主義者：絶対的なものなどはないと考えている。あらゆる理論や概念は、それを生み出した歴史的・社会的背景がある。

## 2. 暗黙の前提

語っていないのに、当然視されているものが議論に含まれている。(e.g. ルソーは人間は自由かつ平等であることを前提として議論を進めていたが、あるときそれに疑問を抱いた。本当に人間は自由かつ平等なのか？ 材料としての個人はしっかりしているか？ ルソーはこれらに問題観念を抱き、各個人に対してしっかり啓蒙しなければならぬと「教育論」Emile を出版した。

知的作業として前提を追及することが重要(たとえ暴露主義的になったとしても)

## 3. 全体の中での意味づけ

各世紀において状況は異なる、一部分だけで全体を語ってはならない(e.g. 19 世紀、20 世紀、21 世紀の、それぞれの政党の意義と役割は全く異なる)。一部分だけの教養では基礎知識の押しつけに終始し、使えない知識(カス)が頭の中に溜まる。

授業では比較可能な形に整理して、できる限り多角的に捉えられるようにしました。  
政治科学 Political Science を、政治哲学などとも絡めました。

## 502：科学的理論の本質

[参考書] P.K.ファイヤアーベント「方法への挑戦」(1981)

(急進的な本らしい...)

知識としての

「経験的政治科学」・「規範的政治哲学」・「実践的政治イデオロギー」を統合できたのは、科学 science に対する心意気の結果である。

## 1. どのような理論でも、現実の一部分しか説明できない。

現実	理論
一部分のみ説明	

現実にはあらゆる経験的事実(見たり知ったり聞いたりしているモノ・コト)が含まれ、実に多様・広範である。

現実を元に理論をつくるが、理論は現実全てを網羅することはできない。

一部分のみを切り取って理論を形成

cf. 全てを説明できる論理：偶然である、神の御業である、陰謀である、のいずれかで非論理的かつ説得力に欠ける。

## 2. 客観的観察

経験的事実を我々はどう認識するのか？ 「観察」によって。

予想された理論と観察から得られる実証を照らし合わせる。

ものごとが複雑になると、全ての人が同じ見方をすることが難しくなる。ものの見方が分かれて、観察結果は異なってしまう。

(e.g.1 社会問題...「事実の検証」の段階で観察の仕方は分かれてしまう。)

(e.g.2 地動説と天動説...見ているのは「天体」という同じ事象であるが、それを観察する仕方が異なっただけである。ガリレオより頭のいい人も星を見ていた。たとえ天動説の理論でも、星を見ればそれなりに合理性をもって観察される。ガリレオはものの見方が他人と異なったのだ。)

全ての人が同じ観察すると考えるのは誤り。

観察は心の中の自分の理論に従っており、万人は同じ見方をしない。

科学 science は堂々巡りを繰り返している。

理論に基づく現実を観察し、切り取った現実を理論化する。

科学の進歩は、実験および実績の積み重ねでは変わらず、以前の理論では考えられなかったような理論の出現に起因する、パラダイムの変換によるものである。

世の中の人々が真理と思っているのは、膨大な理論のうちの成功した理論でしかない。

## 3. 成功した議論

a. 攻撃：対抗理論の排除      他の理論はダメだ、とする。それ以前にあった理論の否定に躍起になる。

b. 防御：経験的内容の減少      世の中は多様であることに対して、防衛 defense するためには、どんどん対象領域を小さくすればよい、(e.g. 東アジアにおけるカブトムシ考察 日本におけるカブトムシ考察 ... 私の飼っているカブトムシ考察) 理論は貧困化しているが、誰も反抗できないので成功していると言える。

哲学もイデオロギーも政治科学も同じ形で掌握できる。また常に存在する恒久的理論は有り得ない。

### 5 0 3 : 政治理論における相対性

#### (1) 歴史的相対性

ある時代に適合したものが、他の時代に適合するとは限らない。

#### (2) 分野的相対性

ある分野に適合したものが、他の分野に適合するとは限らない。すべてを網羅できないから一部分のみ扱っている(e.g. 政策理論と自然理論は異なる。政治理論は、全体として貫く議論は排除される)。

以上、ノートのとめはここまでです。ノートまとめてみて思ったのは、もう少し取舍選択をしっかりとやればよかったかな、ということですね。「これはシケプリではない」との声も、何人かに指摘されました。講義を網羅する形になってしまったので、量は増え講義録にしかないかもしれませんが、きちんとやれば成績には結びつくと思われます。65 ページまで、せいぜい16～18 時間で片づけられると思いますので、頑張ってみてください。この後、問題の例にいくつか触れてみたいと思います。今までの流れをしっかりと見ていただけた方、お疲れ様でした。問題のみに触れたい方、こんにちば、初めまして(笑)

では過去問を見ていくことにします。授業ノートのとめが抽象的に過ぎると思われる人は、とりあえずこの過去問をしっかりと見ておけばいいと思います。全く同じ問題が出ることは望み薄ですが、高橋先生の出題のクセが見抜けたりすれば幸いです。ただし高橋先生が言っていたのは「今までの授業ノートの内容とは異なる」ということです。今回のシケプリでは過去のノートの内容も部分的に採用しています。もちろんノート以外において、すなわち試験問題も、過去と比較して傾向が異なり得ます。それをきちんと踏まえておいてください。

とはいうものの、万が一にも時間に余裕があれば、一度解いてみられることをお勧めします。ええ、もちろんわかっていますよ、アナタに時間の余裕が全く無いことぐらい(笑)

問題は次ページから載せることにします。註を設問ごとに付けていますが、とりあえずは自力で解いてみて下さい。今年の試験範囲では解けない問題についてはその旨を記載しています。B5 版に合わせる為に、文字配置などは変更してあります。

では頑張ってみて下さい。1 行は30 字とみて差し支えありません。

もう一度言います。解答その他に責任は持ちません。あしからず。

政治 試験問題 - 文 - (出題者:高橋直樹)

2001 年 7 月 25 日(水)15:00 ~ 16:00

注意

- (1)問題用紙 1 枚, 答案用紙(両面用)1 枚が配布される.
- (2)答案用紙のみを提出すること. 答案用紙の提出については監督教官の指示にしたがうこと. また, 答案用紙は絶対に持ち帰ってはならない.
- (3)ノートや参考書などの持ち込みや参照は一切禁止する. 問題に関する質問は一切受け付けない.
- (4)答案用紙に学年・氏名, 学生証番号, 科類・組, 着席番号, 出題教官名などを忘れずに記入すること.
- (5)試験時間は 60 分とする. 試験開始後 30 分を超えた遅刻者は受験できない.

第 1 問 次の(1)~(6)の語句を,それぞれ 3 行前後で簡潔に説明しなさい.

(10 点×6)

- (1) 政治資源 political resource (注: 今年の授業では 1 2 1 の(2)でやっています)
- (2)  $P=p\} d\} r$  (注: 今年の授業および試験の範囲外! 213)
- (3) 多元的国家観 pluralism (注: 今年の授業では 3 0 1 の(2)でやっています)
- (4) パレート最適 Pareto optimum (注: 今年の授業では 3 1 3 の(3)でやっています)
- (5) フィードバック feedback (注: 今年の授業および試験の範囲外! 出典不明)
- (6) 利益表現(利益表出)interest articulation  
(注: 今年の授業および試験の範囲外! 出典不明)

第 2 問 J.S.ミルによる「多数決」に関する議論について,以下の問いに答えなさい.

(40 点)

- (1)多数決という手続きをとることで,個人の自由を尊重しながら,集団として正しい決定がなぜ可能なかを,ミルの議論に従って簡潔に述べなさい.  
(注: 今年の授業では 3 1 1 の(3)でやっています)
- (3) 現代の先進諸国における民主政治を前提とした場合に,(1)で述べたミルの議論にはどのような問題点があるかを論じなさい.  
(注: 今年の授業ではここまで言及されていません. 自分の頭で推測せよ, と言う話ならまだわかりますし, 対応もできますが, 多分に先生が授業で触れることを躊躇った熟慮民主主義まで触れなければダメなのでしょう. 解けなくてもいい問題だと思いますが, 何か適当なことを論理的に書いていたら点には結びつくでしょうね)

ではここから 2001 年夏学期政治 試験問題解説および解答を作っていくことにでもします。

見ての通り、思いっきり手抜きの出題ですね。しかし解答は千差万別になると予想され、問題としては適当なのでしょう。それでは一問ずつ見ていきましょう。第一問から。

(1) 政治資源 political resource

とりあえず、121:(意思決定についての)概念を参照にすると、ノートに取ったのは以下のようなものになっています。

- 3 .政治資源 political resource...影響力を行使する為に使える手段。以下に例として、
- i 資金 money...2 大政治資源の1つ。
  - ii 物理的力 power...「言うことを聞かなければおしおきだ」暴力。2 大政治資源の1つ。(cf.「ではp.2の(独裁者の)権力 power とは何処が違うの?」との問いには、先生曰く、「基本的には一緒に、成立過程と語の使用目的が異なる。」)
  - iii (正しい) 哲学の力 physical...論理の力(e.g.ガンジーの非暴力不服従運動)
  - iv 愛(筆者注:これが政治資源? やれやれ。)

これをうまくまとめればいいわけですが、90 字までいかない! って人は「影響力」についてちょっと触れておけばいいと思います。ちなみにこの「愛」っていうのは、今年は説明されませんでしたね...昨年以前のシケプリもいくつか参考にしていますが、そこらには皆載っているんですが、何故でしょうかねえ。真意はわかりかねますが、想像するに、この愛ってアガペーのコトなんでしょうけどね。

じゃ解答。全然模範的なものではないけれど。

自らの利益関心に従って、影響力を行使し他者の意思決定に働きかけ、自らにとってより好都合な展開を誘導し得る政治的な手段のこと。資金や物理的力の他に、哲学や愛の力もこれに含まれる。(88 字)

(2) P=p} d} r

授業で扱っていないので解答不可能です。昨年のシケプリ等々を基礎に解答をつくってもいいですが、労力に見合わないんで飛ばさせて下さい。

(4) 多元的国家観 pluralism

301: 考え方の歴史から一部抜粋すると、

b. 多元主義的国家論 pluralism

- 国家もひとつの社会集団に過ぎず、特別なものではない。
- 国家だけが権力を独占しているわけではない。
- それぞれの集団がそれぞれの権力を持っている。
- 国家は他の集団と比べ、相対的な優越状態にあるだけである。(他の集団の調整を出来るから)

となります。これをまとめてくれればOK だと思います。伝統的国家観と対比しても可でしょう。では解答。

国家は社会の一部に過ぎず、自治権を持つ他の諸集団と同位にならぶ一集団であると考えること。ただし国家は社会を調停する役目を担っているので、他集団より若干ながら優越するとの立場もある。(90字)

(4) パレート最適 Pareto optimum

あまりにも有名なので解答だけでいいでしょう。

民主主義的な集会的選択を行う際、集団を構成する個人の利益を可能な限り尊重した結果、他の個人の満足を減ずることなしには、もはやどの個人の満足をも増し得ないような状態のこと。(86字)

(5) フィードバック feedback

(6) 利益表現(利益表出)interest articulation

どちらも授業でやってないので解答作りません。

続いて第 2 問。解答だけで、311 を参照にして下さい。文字制限がないので冗長、或いは意味不明になっているかもしれませんがご勘弁。政治理論は好きじゃないんで。僕にすばらしい解答を期待されても全く無理です。

(1) 解答：

個人的利益関心は人それぞれであり、集团的利益関心は尊重されないように思われるが、しかしながら社会を構成する人々のうちのごく少数は、個人的利益関心の観点を超えて全体における利益関心の観点到立っている。そうした全体の利益を考へるごく少数の人たちの意見は、常に一致しており、全ての人々が討議に参加すれば、自ずから個人的かつ横暴な意見は放棄され、ごく少数の人々が唱えるような正しい意見に収束するから。(196 字)

(2) 解答：

現代の先進諸国における民主政治は間接民主制に基づいており、ミルの唱えるような政治的決断の正当性は、全体の利益を考へるごく少数の人々を含む、社会構成員全員が参加した討議において承諾を得ることによって得られるが、実際には経済的効率の面から不可能であり、また間接民主制における代議士も、皆々が全体の利益を考へているとはいひ難い。また組織政党の発展により審議が形骸化しており、さらに多数決採択においては、個人の意見は微小である。(207 字)

はい、続けて 2002 年度の問題です。前年に比べれば幾分易しめ。ではどーぞ。

2002 年度夏学期「政治」

時間 60 分 持ち込み不可

担当教官・高橋直樹

### 試験問題

第 1 問 次の ~ の語句を、それぞれ 3 行程度で簡潔に説明しなさい。(10 点×6)

自己決定的人間 (註: 今年の授業では 1 1 2 の(1)ないし 3 1 1 の(1)でやっています)

影響力の範囲 (scope) (註: 今年の授業では 1 2 1 の(2)でやっています)

E P R 図式 (註: 今年の授業では 2 2 2 の(1)でやっています)

投票者のパラドックス (註: 今年の授業では 3 1 3 の(2)および(5)でやっています)

$G = A = I$  (註: 今年の授業では 3 2 2 の(1)でやっています)

階級闘争 (註: 今年の授業では 4 0 2 の(2)でやっています)

### 第 2 問

最近の日本で起こった政治的出来事を任意に 1 つとりあげて、政治学概念と用語を使用して解説しなさい。

注: とりあげる出来事は日本の政治に関することならば何でもよろしい。例えば、鈴木宗男や田中真紀子に関する一連の出来事、小泉首相や自由民主党に関すること、また、構造改革や公務員制度など、広い意味で日本の政治に関することならば、どんなことでもよろしい。

じゃ解答。第1問から。

### 自己決定的人間

解答のみで。以下の問題も同様。そろそろシケプリ作りにも疲れしました。文脈がおかしいとすればそれは疲れのせいです。

人間は、神や国家、その他の権力に依ることなく、自分自身の独立した判断により、誤りを冒してもそれを理性によって修正した上で行動できるとする近代的な人間観。ジョン＝ロックなどが唱えた。(90字)

### 影響力の範囲 (scope)

自らの利益関心を基に他者の意思決定に働きかけ、自らにとってより好都合な展開を誘導し得るような影響力を、及ぼすことのできる特定の分野・事柄・対象・テーマのこと。権威・信用を伴う。(89字)

### E P R 図式

政治アクターが、環境から影響を受けて自らのパーソナリティを形成し、そのパーソナリティが反応として外の環境に表出する、というグリーンスタインの政治行動に関するモデル。(82字、うまく書けないので誰か模範解答作って下さい)

### 投票者のパラドックス

各人の選好順位を基にすると、各人の間で選好順位が循環選択となり、集団としての選好順位が決定不可能状態に陥ってしまい、集団としての一定の選好順位の解答が求まらなくなってしまうこと。(89字、これまた微妙な説明です)

### G = A = I

「集団 Group とは活動 Activity であり、活動とは利益 Interest である。」と言い表されるベントレーの集団理論。特定の目標を実現するために活動する個人の集まりが、利益関心を追求する。(95字)

### 階級闘争

被支配階級が、支配階級が持っている特権を奪い取り、また地位の転換を企図する闘争が恒久的に繰り広げられているとするマルクスの理論。マルクスは階級闘争を社会の根幹に置いた。(85字)

第2問。あまりにもアホくさい問題なので、各自で解答を模索して下さい。

ついでに予想問題。解答は仮に的中してしまった場合、みんな同じ答えになりかねないし、それでカンニング扱いされて全員「不可」ってしまえば元も子もないので当面は作りません。それでも要望があれば前日にでも配布します。

第1問 次の ~ の語句を、それぞれ3行程度で簡潔に説明しなさい。(10点×6)

主観的利益アプローチ

最小勝利連合

SIOR(SOR)図式

最大多数の最大幸福 greatest happiness of the greatest number

S D P

家産国家

第2問

「民主主義は存在し得ない」ことを証明したアローの一般不可能性定理 general impossibility theorem を、あなたなりに簡潔に説明しなさい。必ずしも数式を用いる必要はない。また、授業で扱った用語を用いている解答は、これを高く評価する。なお、この一般不可能性定理を受け、投票者のパドックス問題を解消するためには、一般不可能性定理をどのように改変すればよいのか、あなたの思いつくことを、併せて記述しなさい。(40点)

アローの一般不可能性定理 general impossibility theorem をもとに予想問題を作りました。先生が彼の著書の内容が高度すぎて読む気しないし、計算もしたくないとおっしゃっていたので、先生が徹底的に押さえていない分野は多分出ないという懸念も勿論ありますが、練習としてやってみるには好都合な問題だと判断しました。

ではここまでお付き合い、どうもありがとうございました。私はもう疲れしました。文字カウントしてみると59,713文字。ありえん。

ともあれ、このシケプリがアナタの成果に結びつくことを期待します。